



令和 3 年度経済産業省デジタルプラットフォーム構築事業  
(中小企業・小規模事業者支援サイトの A I 活用による  
経営課題解決促進の実証研究に係わるデータ利活用ルール検討調査)  
最終報告資料

2022年3月31日

# 目次

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 1. 本事業の目的及び前提の整理     | P2  |
| 2. ユースケースと利用データ項目の整理 | P9  |
| 3. データ利活用に向けた基本方針の整理 | P24 |
| 4. データ取得時における対応      | P50 |
| 5. データ提供時における対応      | P54 |
| 6. 非識別加工に係る整理        | P58 |

- 弊社は、貴庁と弊社との間で締結された2021年11月16日付けの業務委託契約書に基づき、貴社と事前に合意した手続きを実施しました。本報告書は、仕様書を含む合意した内容に従って、貴庁の施策実行の参考資料として作成されたもので、弊社が実行を請け負ったものではありません。内容の採否や使用方法については、貴社自らの責任で判断を行うものとします。
- 本報告書に記載されている情報は、公開情報を除き、貴庁から提出を受けた資料、また、その内容についての質問を基礎としております。これら貴庁から入手した情報自体の妥当性・正確性については、弊社側で責任を持ちません。
- 本報告書における分析・検討手法は、多様なものがありうる中でのひとつを採用したに過ぎず、その達成可能性に関して、弊社がいかなる保証を与えるものではありません。

# 1 本事業の目的及び前提の整理

# データ利活用の重要性の高まりを背景として、中小企業庁においてもDXの発展ビジョンとして官民連携による事業者の経営支援の実現を目指しているものと理解しています。

## 本事業の背景

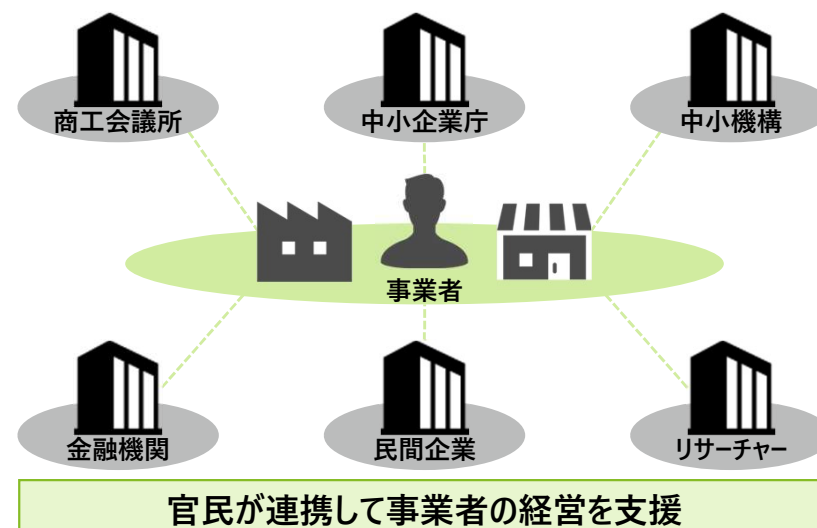
### データ利活用の背景

- 近年、我が国においてはデジタル技術・ネットワーク技術が急速に普及しており、普及によって蓄積された様々なデータを積極的に利活用することが社会課題の解決に重要な役割を果たす可能性が高まっている。
- また、今後社会基盤として活用が期待されるAI活用の推進にあたって、AIに投入するデータの質・量をともに向上させて、流通させることが必要となっている。
- このようなデータ利活用の重要性の高まりによって、「官民データ活用推進基本法」が制定され、国が官民データ活用の推進に関する施策を総合的に策定・実施する責務を有することが明示された。
- また、個人情報保護法の改正によって、データの匿名加工（匿名加工情報・非識別加工情報）を行うことで、個人の権利利益を守りつつデータを利活用することが可能となった。

### 中小企業庁の取組

- 中小企業庁では、DXの発展ビジョンとして、2025年までに官民連携して中小企業の成長をサポートする世界を目指しており、現在、各支援機関（商工会・商工会議所・よろず支援拠点等）と協力して、全国の中小企業・小規模事業者の経営相談を行うとともに、ミラサポplusというオンライン上のサイトでも、積極的に施策の紹介、サポートを行っている。
- しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来の系列的取引に基づく市場は急速に縮小しており、多くの中小企業が、コロナ渦への対応や、事業の再構築に早急に取り組まねばならない状況に追い込まれており、現在の経営サポート体制だけでは、358万社いるといわれる中小企業のコロナ渦への対応や事業再構築をケアするのは不可能に近い状況となっている。
- このため、積極的に官民連携し、経営者に課題解決の手段をより様々な形で提供していくことが急がれている。

### 2025年の経営支援の姿



# 本事業においては官民連携による個社支援及びEBPMの促進を目的として、データ利活用に向けて各種規制等を調査し、規定類の策定・改定方法等を提示します。

## 本事業の目的

——デジタルプラットフォーム構築事業におけるデータ利活用の目的——

|                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 官民連携による<br>個社支援 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 各中小企業の属性や経営状態、経営資源等に関する新鮮で正確なデータを蓄積する。<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 蓄積したデータの利活用によって、各事業者に適した支援を必要なタイミングで提供する状態を目指す。</li></ul></li><li>■ 支援施策を効果的に実施するために、公的機関・民間企業にデータを共有し連携する。<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 官民のデジタルサービスレベルのギャップを解消し、事業者にとって使いやすいサービスを提供することで、官民を問わず欲しい情報を得られる状態を目指す。</li></ul></li></ul> |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|         |                                                                                                       |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| EBPMの促進 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ リサーチや民間事業者にデータを開放することで、各種施策の効果分析を行い、その精度を継続的に高めていく。</li></ul> |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|

本事業の目的

- 「令和2年度「中小企業・小規模事業者支援サイトのAI活用による経営課題解決促進の実証研究事業」における、下記(1)～(4)の事業内容に関連する**各種規制について調査を行い、適切な同意取得の方法について検討したうえで、利用規約の策定や補助金等の交付要綱・公募要領の改正案の提示等を実施する。**

### 【事業内容】

(1)

中小企業庁や関連団体等が保有する各データ項目に応じた、公開可能性に関する調査

(2)

データベース一元化に関する調査

(3)

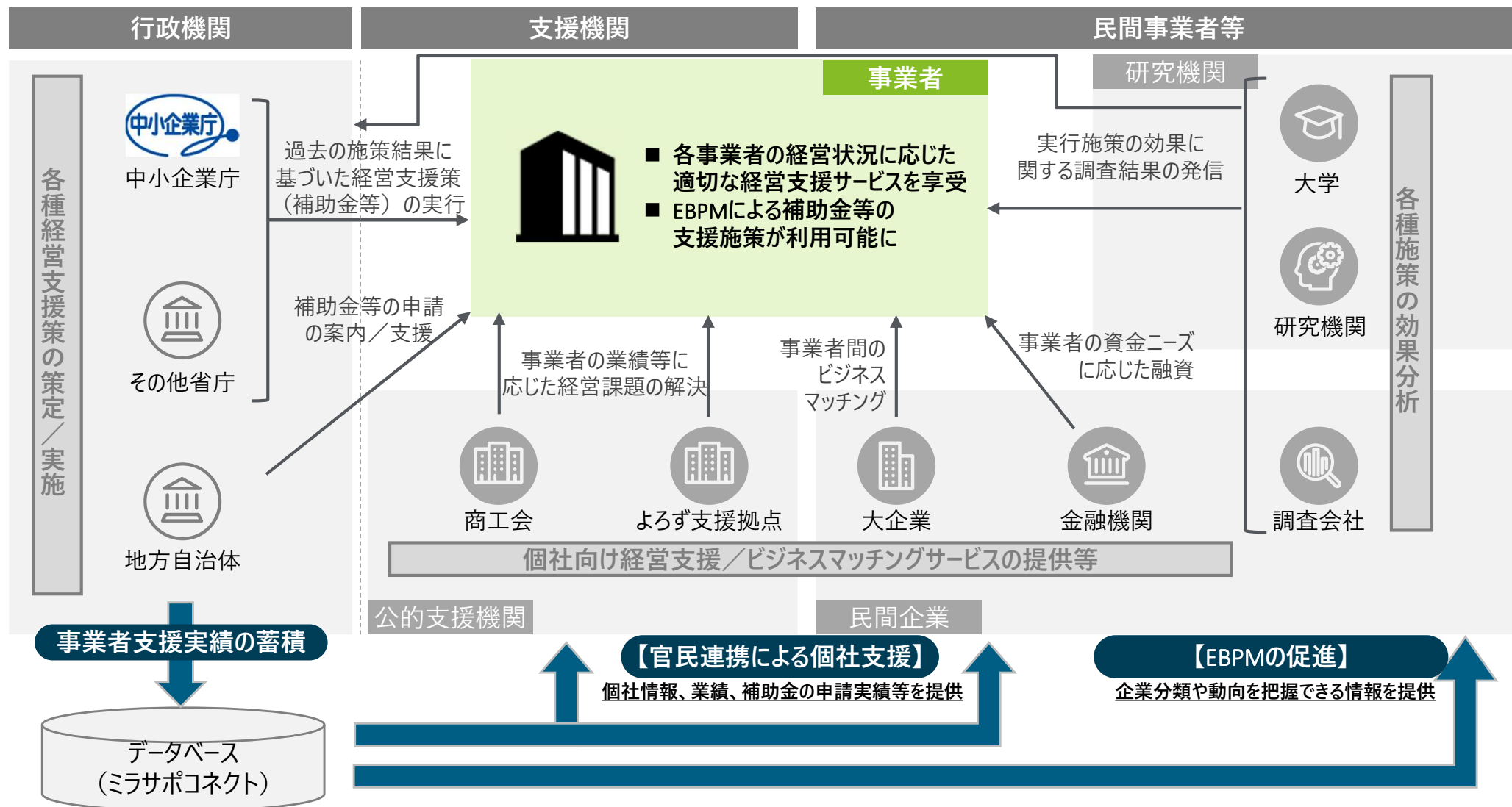
同意取得のあり方に係る提案とデータ提供者・データ利用者向けの利用規約の策定

(4)

匿名加工をした上でのデータ共有に係る調査

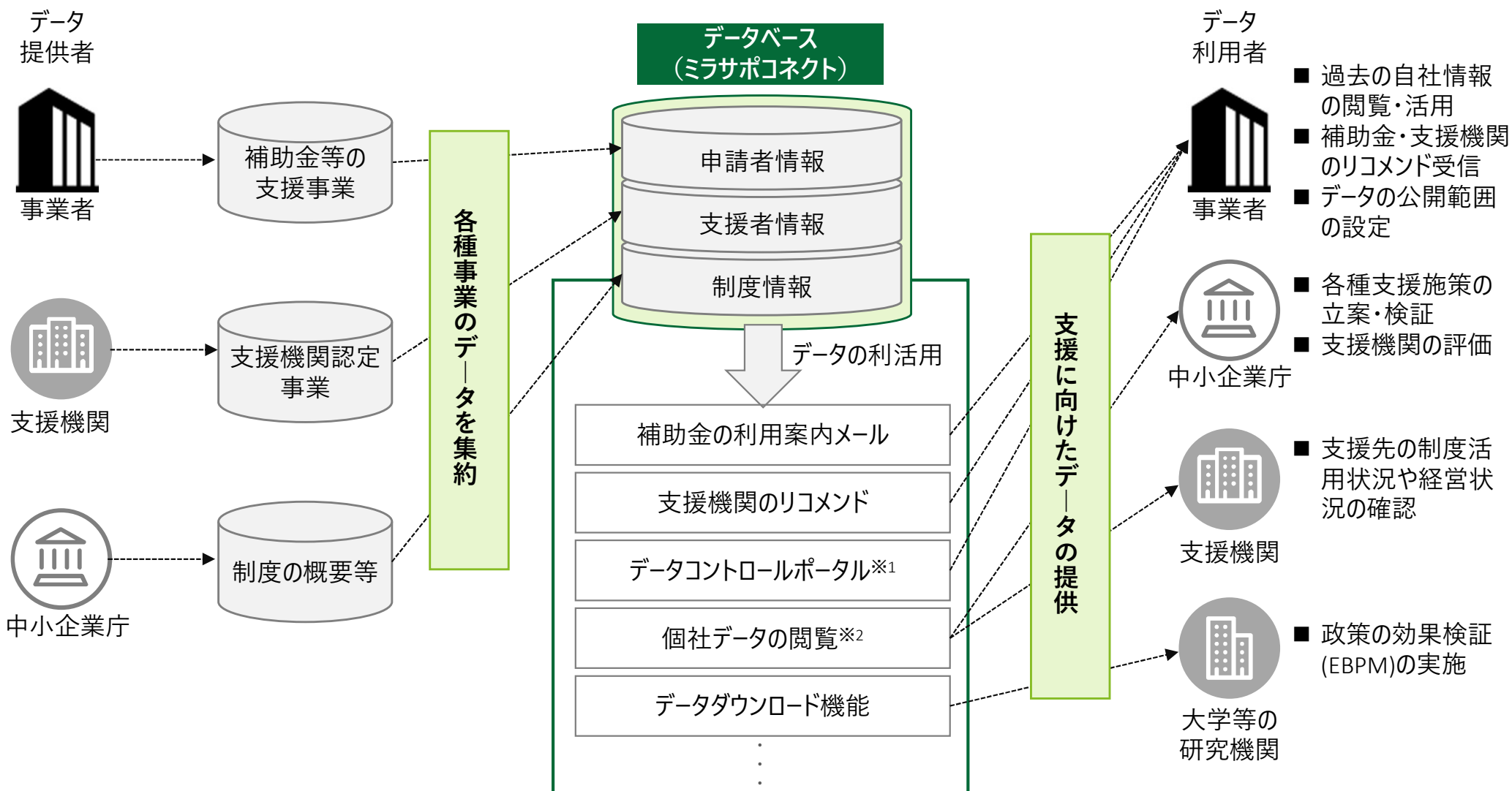
データ利活用の実現に向けて、データ利活用の全体像と具体的なユースケースを把握しながら、何の目的で誰にどのようなデータを提供するかを整理した上で対策を検討します。

## 支援の全体像



データベースであるミラサポコネクトにおいて各種事業の情報を集約し、補助金等の利用案内や個社データの閲覧、データダウンロード等の機能が実装される想定と理解しています。

## ミラサポコネクトの機能イメージ

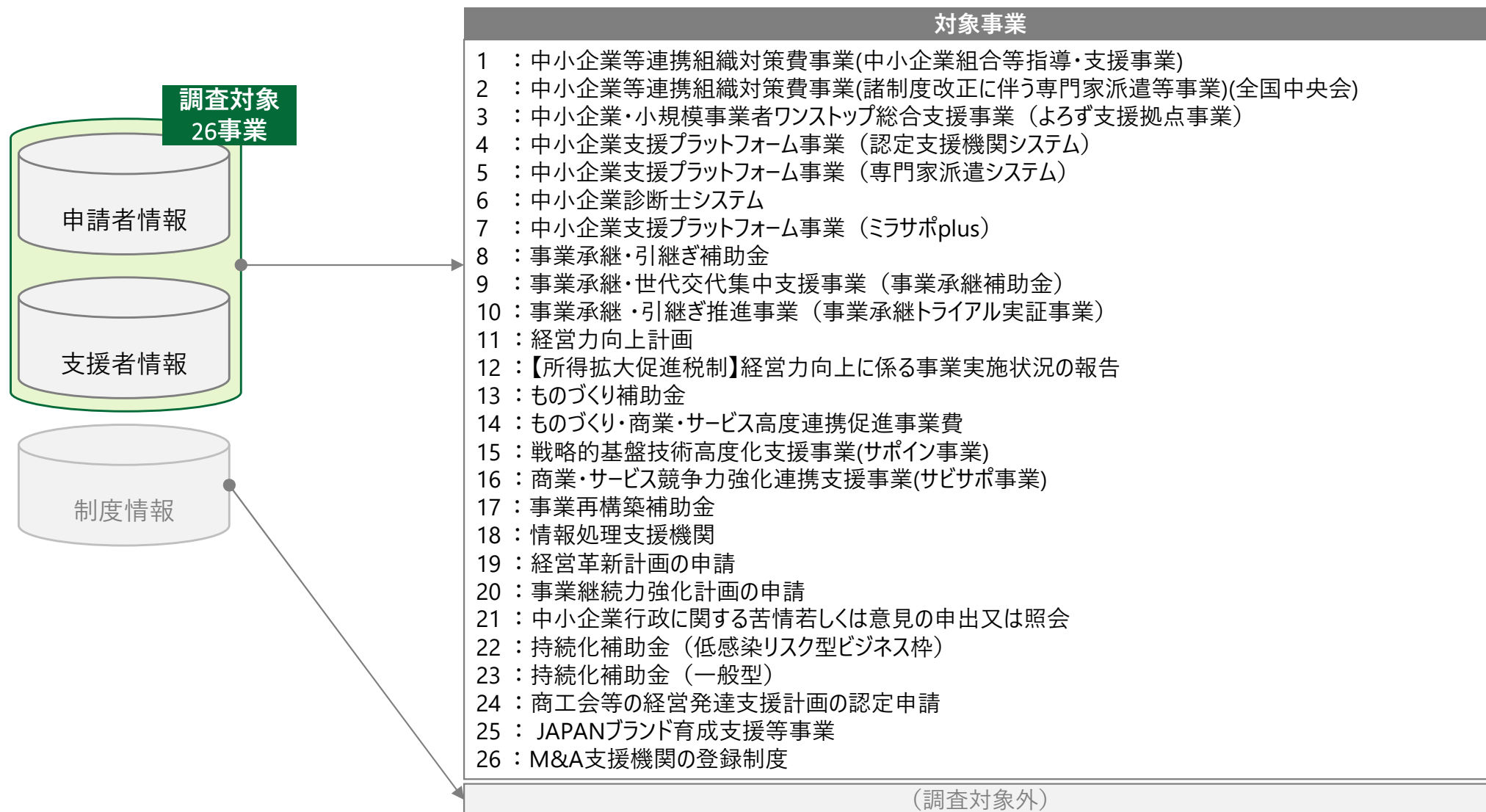


※1 事業者自身の情報を一覧で表示し、各情報の公開可否や公開範囲を設定・変更する機能

※2 支援機関がデータを閲覧するためには事業者に対して個別に情報の開示を請求し、事業者がデータコントロールポータル上で開示を承諾する想定

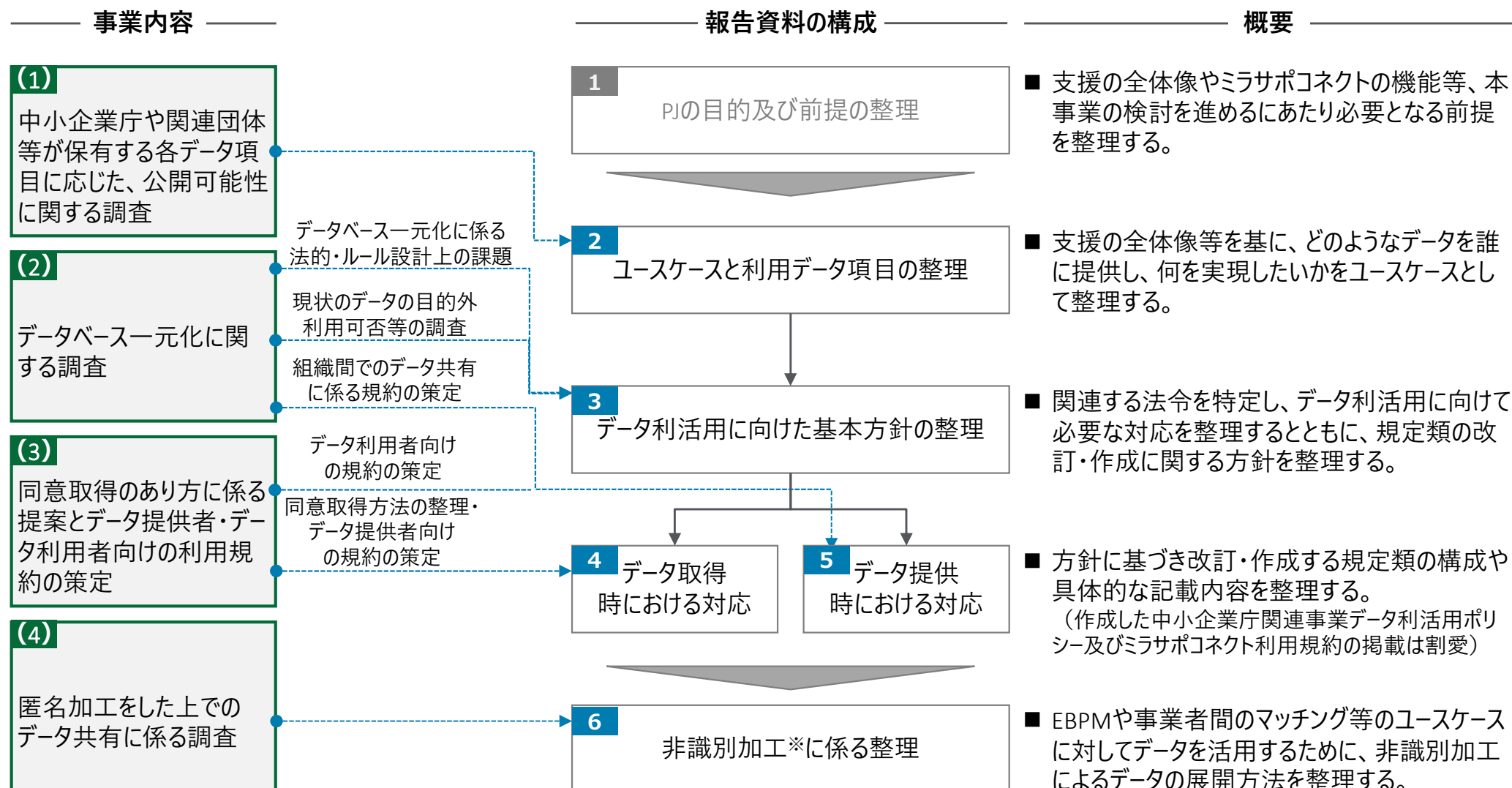
# 中小企業庁が行う以下26事業を対象として、データ取得時の規定の制定状況やデータの取得状況を把握し、データ利活用に向けて必要となる対策を具体化します。

## 本事業において調査対象となる事業の一覧



# 本事業を遂行するにあたり、まずはデータ利活用におけるユースケースを整理し、何のデータを誰に提供する必要があるかを把握した上で、実現に向けた具体的な対応を検討します。

## 本事業におけるアプローチ

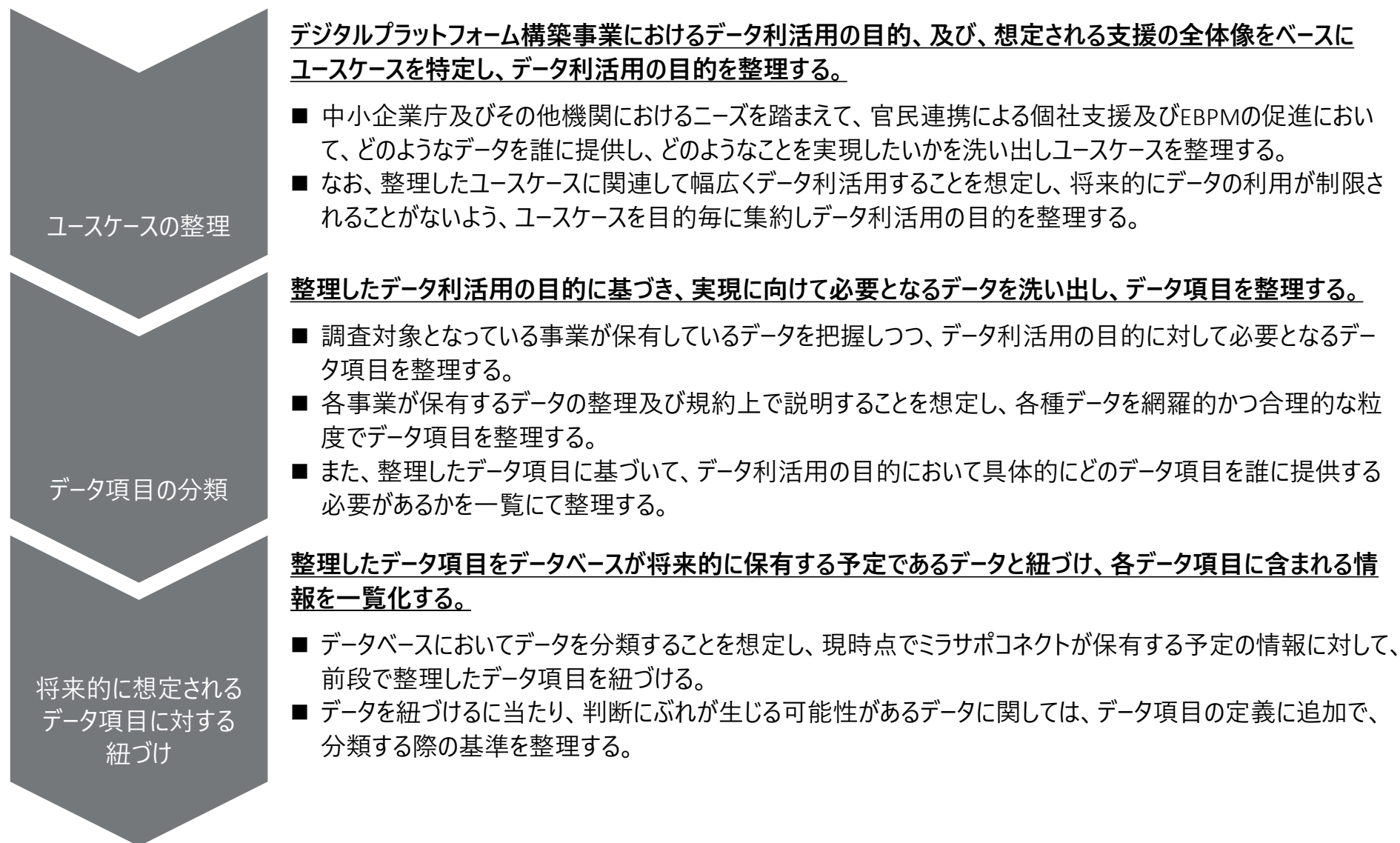


※特定の個人・個社を識別できないように情報を加工することを個人情報の保護に関する法律では匿名加工と表現されるものの、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律においては非識別加工と表現されるため、表現を非識別加工に統一

## 2 ユースケースと利用データ項目の整理

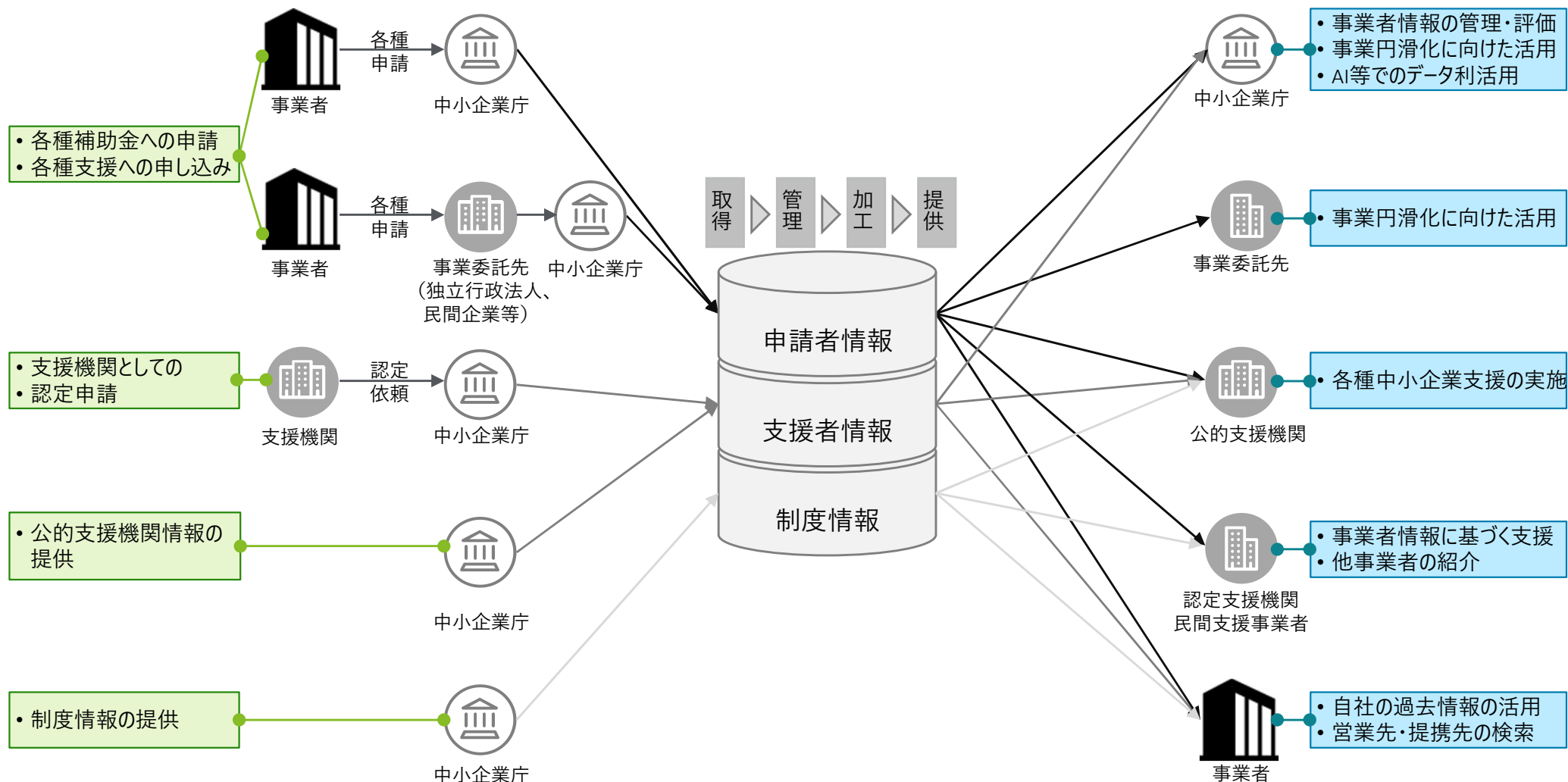
# 想定される支援の全体像等を基に個社支援やEBPMにおけるユースケースを整理し、どのようなデータを誰に提供する必要があるかを整理します。

## ユースケース・利用データ項目の整理におけるアプローチ



# データ利活用のユースケースに関しては、申請者・支援者・制度に係る情報の提供と利活用の関係性で整理が可能と考えます。

## データ利活用に係る関係者と役割



# データを活用し具体的にどのようなことを実施するかを特定し、目的毎に集約することでデータ利活用の目的を整理します。

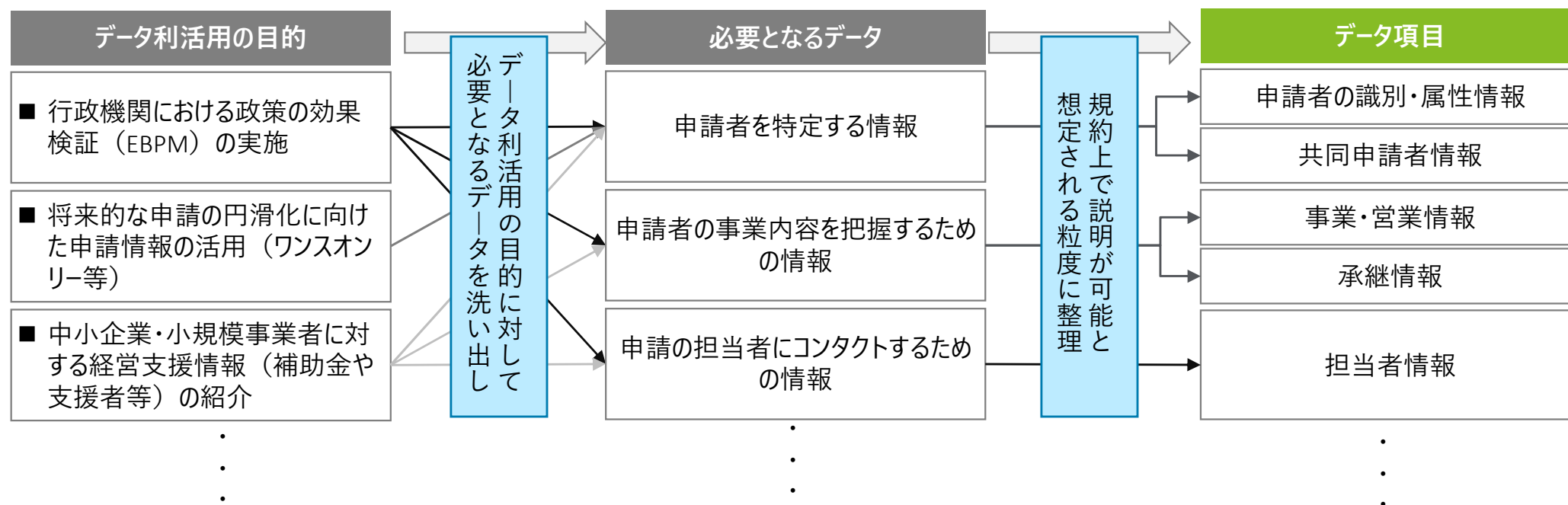
## ユースケースの整理

○：主として利用 △：補助的利用

| No | ユースケース（仮説を含む）                                                                  | データ利用者 |        |     |     | 利用データ          | データ利活用の目的                             |
|----|--------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|-----|-----|----------------|---------------------------------------|
|    |                                                                                | 行政機関   | 公的支援機関 | 委託先 | 事業者 |                |                                       |
| 1  | ■ 行政機関内部での政策の効果検証に向けて、個社の特定が可能な申請情報や事業化情報を活用（RIETIやコンサルなど政策分析の委託先には情報共有する可能性有） | ○      |        | ○   |     | 申請者情報          | ■ 行政機関における政策の効果検証（EBPM）の実施            |
| 2  | ■ 企業情報や過去の申請情報等に基づき、審査プロセスを迅速化（要件との不適合や書類不備に対して自動的にアラート）                       | ○      |        | ○   |     | 申請者情報<br>制度情報  | ■ 将来的な申請の円滑化に向けた申請情報の活用（ワンスオンリー等）     |
| 3  | ■ 事業者の情報や補助金要件等に基づき、各種施策のレコメンデーションを実施し、事業者の各種施策の申請を促進                          | △      |        |     |     |                |                                       |
| 4  | ■ 過去の申請に基づきAIが作成した申請書（補助事業の計画等）を用いて申請                                          | △      |        |     |     |                |                                       |
| 5  | ■ 過去の施策の利用状況に基づいて各種施策の質問に対応して、AIチャットボットが回答                                     | △      |        |     |     |                |                                       |
| 6  | ■ 中小企業庁や公的支援機関（関係団体、独法等）が中小企業の個社情報等を閲覧                                         | △      | △      |     |     |                | ■ 中小企業・小規模事業者に対する経営支援情報（補助金や支援者等）の紹介  |
| 7  | ■ 中小企業庁及び公的支援機関（関係団体、独法等）がメール配信した経営役立ち情報等を経営改善に活用（事業者のアドレスは開示無）                | △      | △      |     |     |                |                                       |
| 8  | ■ 過去の業績や事業計画、経営課題等に基づく、補助金・支援施策情報等の行政施策や民間事業者サービスを紹介                           |        | ○      |     |     |                |                                       |
| 9  | ■ 庁内で収集した事業者に関する情報を事業者と紐づけて管理するとともに、中小企業庁内等で情報を共有・抽出（事業者へのヒアリング、不正受給の履歴等）      | ○      |        | ○   |     | 申請者情報          | ■ 効果的な政策立案や経営支援、業務効率化等のための行政機関内での情報共有 |
| 10 | ■ 販売先・仕入先となり得る事業者を検索し、取引先の拡大に向けた営業を実施                                          |        |        |     | ○   |                | ■ 販売先・仕入先候補としての他事業者への情報提供             |
| 11 | ■ 事業拡大や新規事業創出に向けた技術提携先となり得る他社の検索                                               |        | ○      |     | ○   |                | ■ 技術提携等に向けた情報提供                       |
| 12 | ■ 事業者が質問を行えるオープン・セミクローズドなオンライン掲示板で、支援者（公的支援機関、認定支援機関等）が事業者の情報を閲覧しながら相談に回答      |        | ○      |     |     |                | ■ 経営相談に際する支援者による中小企業・小規模事業者の情報の閲覧     |
| 13 | ■ 認定支援機関及び公的支援機関の支援実績、専門知見等の評価                                                 | ○      |        |     |     | 申請者情報<br>支援者情報 | ■ 支援機関の支援実績や専門知見等の見える化                |
| 14 | ■ 事業者等による、特定の専門知見（融資、コンサル、M&A、税務等）を有する支援機関情報に係る支援実績・評価の検索                      | ○      | ○      |     | ○   | 支援者情報          | ■ 事業者・支援機関への支援者情報の提供・マッチング            |

データ利活用の目的に対して必要となるデータを洗い出した上でデータ項目を整理し、各目的において利用するデータを一覧で整理します。

## 利活用するデータ項目の整理に関する考え方



整理したデータ項目に基づき、データ利活用の目的に対して必要となるデータを一覧化するとともに、各事業が保有するデータを整理する。

# データ利活用の目的に基づいて必要となるデータを整理することにより、目的達成に向けて必要となるデータを漏れなく洗い出します。

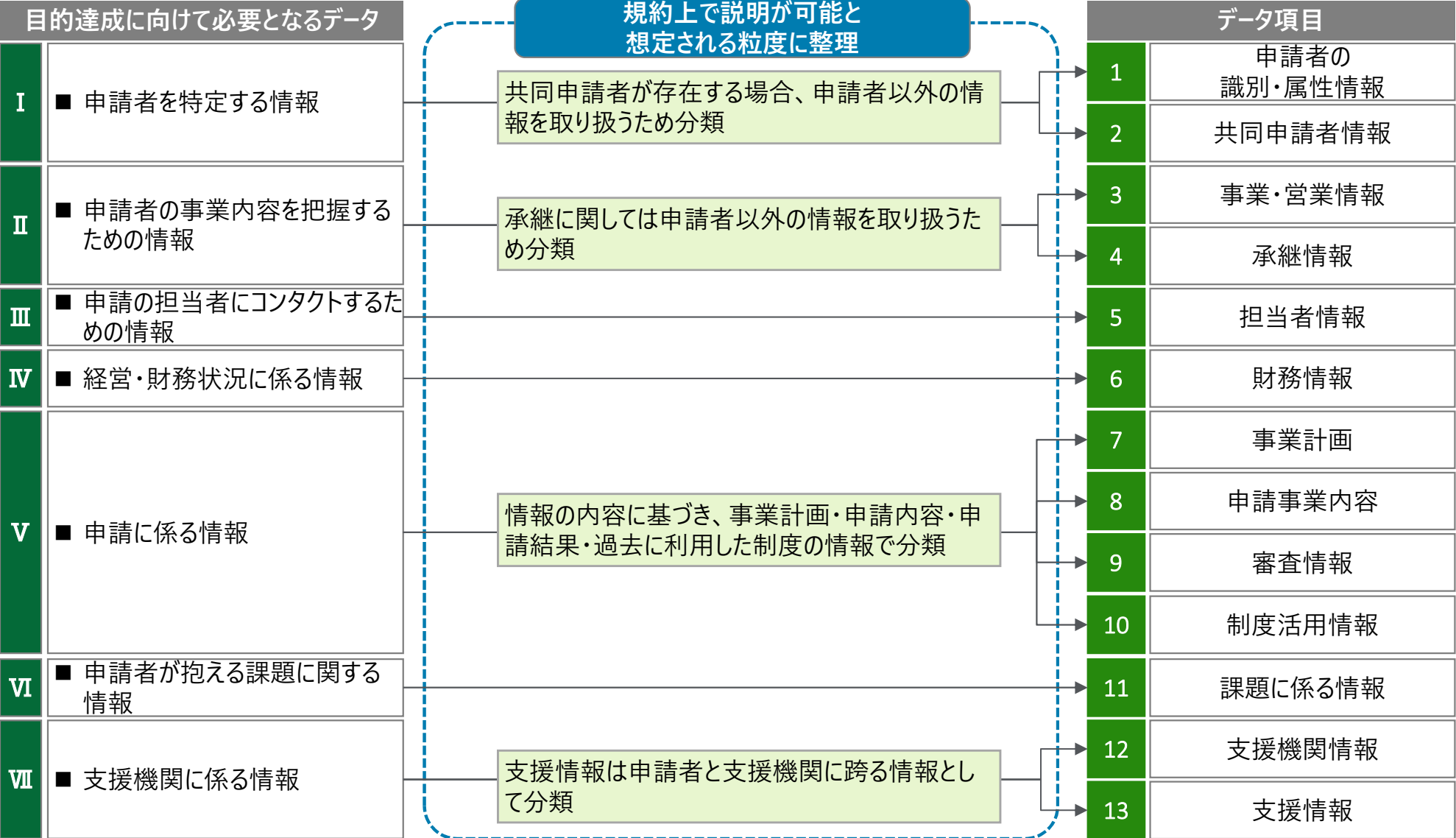
## データ利活用の目的を達成するにあたって必要となるデータの整理

| データ利活用の目的（案） |                                  | 目的達成に向けて必要となるデータ                                                                                                                                                                                  |
|--------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1            | ■ 行政機関における政策の効果検証（EBPM）の実施       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者を特定する情報</li> <li>■ 申請者の事業内容を把握するための情報</li> <li>■ 経営・財務状況に係る情報</li> <li>■ 申請に係る情報</li> </ul>                                                           |
| 2            | ■ 将来的な申請の円滑化に向けた申請情報の活用          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者を特定する情報</li> <li>■ 申請者の事業内容を把握するための情報</li> <li>■ 経営・財務状況に係る情報</li> <li>■ 申請に係る情報</li> </ul>                                                           |
| 3            | ■ 補助金や支援者等の紹介に向けた申請情報の活用         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者を特定する情報</li> <li>■ 申請者の事業内容を把握するための情報</li> <li>■ 申請の担当者にコンタクトするための情報</li> <li>■ 経営・財務状況に係る情報</li> <li>■ 申請に係る情報</li> <li>■ 申請者が抱える課題に関する情報</li> </ul> |
| 4            | ■ 行政機関内での申請情報の共有                 | ■ 全ての情報                                                                                                                                                                                           |
| 5            | ■ 販売先・仕入先候補としての他事業者への情報提供        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者を特定する情報</li> <li>■ 申請者の事業内容を把握する情報</li> </ul>                                                                                                         |
| 6            | ■ 技術提携等に向けた情報提供                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者を特定する情報</li> <li>■ 申請者の事業内容を把握する情報</li> </ul>                                                                                                         |
| 7            | ■ 経営支援等に関する相談にともなう支援者に対する事業情報の提供 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者を特定する情報</li> <li>■ 申請者の事業内容を把握するための情報</li> <li>■ 経営・財務状況に係る情報</li> <li>■ 申請に係る情報</li> <li>■ 申請者が抱える課題に関する情報</li> </ul>                                |
| 8            | ■ 行政機関内での支援機関の支援実績や専門知見等の共有      | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者を特定する情報</li> <li>■ 経営・財務状況に係る情報</li> <li>■ 支援機関に係る情報</li> </ul>                                                                                       |
| 9            | ■ 事業者・支援機関への専門知見を有する支援者情報の提供     | ■ 支援機関に係る情報                                                                                                                                                                                       |

| 目的達成に向けて必要となるデータ（重複削除後） |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| I                       | ■ 申請者を特定する情報          |
| II                      | ■ 申請者の事業内容を把握するための情報  |
| III                     | ■ 申請の担当者にコンタクトするための情報 |
| IV                      | ■ 経営・財務状況に係る情報        |
| V                       | ■ 申請に係る情報             |
| VI                      | ■ 申請者が抱える課題に関する情報     |
| VII                     | ■ 支援機関に係る情報           |

# 目的達成に向けて必要となるデータは、規約類に記載して事業者へ網羅的かつ合理的に説明できる程度の粒度に分類します。

## 規約上に記載するデータ項目の整理



# 整理した各データ項目の定義を明確化し、各事業が保有するデータ項目や将来的に想定されるデータ項目を分類します。

## データ項目の定義（1/2）

|   | データ項目           | 定義                                                                                                                                                                        | 具体例                                                                                                                               |
|---|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 申請者の<br>識別・属性情報 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者を特定可能、もしくは申請者に到達可能な情報</li> <li>■ 法人の規模や体制を示す情報（申請法人の規模を把握する情報として、中小企業基本法に基づき、財務情報にも含まれる資産額・従業員数の情報を保持。売上等は財務情報に分類）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ gBizID</li> <li>■ 申請者名（会社名/屋号等を含む）</li> <li>■ 本店住所・代表電話</li> <li>■ 資産額・従業員数</li> </ul>   |
| 2 | 共同申請者情報         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 補助金等の事業に申請するにあたり申請者が提携する法人、及び、所属する組織の情報</li> </ul>                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 連携先情報</li> <li>■ 加入組織情報</li> </ul>                                                       |
| 3 | 事業・営業情報         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者の事業概要</li> <li>■ 特許情報や取引情報等、事業活動において有用となる技術上または営業上の情報（原則、営業秘密に該当する可能性が高い情報を集約）</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業内容</li> <li>■ 特許情報</li> <li>■ 販売先/仕入れ先</li> <li>■ 株主・出資者</li> </ul>                    |
| 4 | 承継情報            | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者が承継した（承継予定の）事業に係る情報</li> <li>■ 申請者が事業を承継した（承継する予定の）法人に係る情報</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業承継形態・事業承継状況</li> <li>■ 承継者の要件</li> <li>■ 承継先の基本情報</li> </ul>                           |
| 5 | 担当者情報           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者において、補助金等の申請を担当している部門・従業員の名前及び連絡先</li> </ul>                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請担当者名</li> <li>■ 申請担当者の所属部署</li> <li>■ 申請担当者の連絡先</li> </ul>                             |
| 6 | 財務情報            | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請者の確定申告及び財務三表、もしくはそこに記載されている情報（例：売上、営業履歴、借入金等）</li> <li>■ 財務三表のデータから算出された経営・財務指標（例：各種利益率、資産の流動比率等）</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 確定申告書等に係る情報</li> <li>■ 貸借対照表に係る情報</li> <li>■ 損益計算書に係る情報</li> <li>■ ローカルベンチマーク</li> </ul> |

整理した各データ項目の定義を明確化し、各事業が保有するデータ項目や将来的に想定されるデータ項目を分類します。

## データ項目の定義（2/2）

|    | データ項目   | 定義                                                           | 具体例                                        |
|----|---------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 7  | 事業計画    | ■ 申請者の中期経営計画や申請した事業に係る計画の内容                                  | ■ 中期経営計画<br>■ その他事業計画                      |
| 8  | 申請事業内容  | ■ 補助金等の支援を申請する事業の概要<br>■ 補助金交付金額及び金額決定に係る費用などの情報             | ■ 申請事業名・概要<br>■ 補助金交付情報<br>■ 補助対象経費        |
| 9  | 審査情報    | ■ 申請に対して審査員等が審査をした際の情報                                       | ■ 審査点                                      |
| 10 | 制度活用情報  | ■ 過去に認定・承認を受けた補助金・行政手続                                       | ■ 補助金交付の履歴<br>■ 行政手続の履歴                    |
| 11 | 課題に係る情報 | ■ 事業者が抱える課題等、事業者から中小企業庁や支援機関が収集した情報（公募要領に記載する場合は、事業者を申請者と記載） | ■ 事業者が抱える課題<br>■ 支援機関への相談内容                |
| 12 | 支援機関情報  | ■ 支援機関として登録している情報                                            | ■ 認定支援機関ID/認定支援機関名<br>■ サービス内容<br>■ 資格保有内容 |
| 13 | 支援情報    | ■ 申請者が支援機関から受けた支援に関わる内容                                      | ■ 支援内容                                     |

# データ利活用の目的に対して活用するデータを整理した結果をもとに、法的論点の整理、及び規定類の改訂案を作成します。

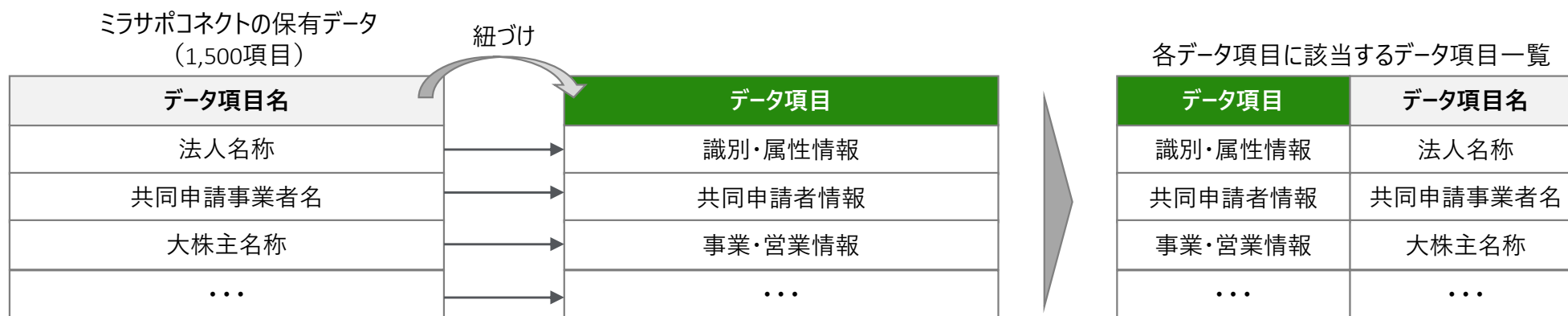
## 【ご参考】データ利活用の目的に対して活用するデータ

|   |                                     | データ項目               |                  |                  |               |               |               |               |                 |               |                  |                 |                 | データ利用者         |              |        |            |      |             |
|---|-------------------------------------|---------------------|------------------|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|---------------|------------------|-----------------|-----------------|----------------|--------------|--------|------------|------|-------------|
|   |                                     | I                   |                  | II               |               | III           | IV            | V             |                 |               | VI               | VII             |                 | 経済産業省          | 中小企業庁及び業務委託先 | 独立行政法人 | 大学その他の研究機関 | 支援機関 | 中小企業・小規模事業者 |
|   |                                     | 1<br>性識申請者<br>情報・属の | 2<br>者共同申請<br>情報 | 3<br>業事業<br>情報・営 | 4<br>承継<br>情報 | 5<br>情担<br>情報 | 6<br>財務<br>情報 | 7<br>事業<br>計画 | 8<br>内容申<br>請事業 | 9<br>審査<br>情報 | 10<br>用制<br>度情報活 | 11<br>る課<br>題に係 | 12<br>情支<br>援機関 | 13<br>支<br>援情報 |              |        |            |      |             |
| 1 | 行政機関における政策の効果検証（EBPM）の実施            | ○                   | ○                | ○                | ○             |               | ○             | ○             | ○               | ○             | ○                |                 |                 |                | ○            | ○      | ○          | ○    |             |
| 2 | 将来的な申請の円滑化に向けた申請情報の活用（ワンストップ等）      | ○                   | ○                | ○                | ○             | ○             | ○             | ○             | ○               |               | ○                |                 |                 |                |              | ○      | ○          |      |             |
| 3 | 中小企業・小規模事業者に対する経営支援情報（補助金や支援者等）の紹介  | ○                   | ○                | ○                | ○             | ○             | ○             | ○             | ○               |               | ○                | ○               | ○               |                | ○            | ○      | ○          | ○    |             |
| 4 | 効果的な政策立案や経営支援、業務効率化等のための行政機関内での情報共有 | ○                   | ○                | ○                | ○             | ○             | ○             | ○             | ○               | ○             | ○                | ○               | ○               | ○              | ○            | ○      |            |      |             |
| 5 | 販売先・仕入先候補としての他事業者への情報提供             | ○                   | ○                | ○                | ○             |               |               |               |                 |               |                  |                 |                 |                |              |        |            | ○    | ○           |
| 6 | 技術提携等に向けた情報提供                       | ○                   | ○                | ○                | ○             |               |               |               |                 |               |                  |                 |                 |                |              |        |            | ○    | ○           |
| 7 | 経営相談に際する支援者による中小企業・小規模事業者の情報の閲覧     | ○                   | ○                | ○                | ○             |               | ○             | ○             | ○               |               | ○                | ○               | ○               |                |              | ○      |            | ○    |             |
| 8 | 支援機関の支援実績や専門知見等の見える化                | ○                   | ○                |                  |               |               | ○             |               |                 |               |                  |                 | ○               | ○              | ○            | ○      |            | ○    | ○           |
| 9 | 事業者・支援機関への支援者情報の提供・マッチング            |                     |                  |                  |               |               |               |               |                 |               |                  |                 | ○               | ○              | ○            | ○      |            | ○    | ○           |

ミラサポコネク트가保有するデータを整理した全データ項目に振り分け、網羅性を担保しつつ各データ項目に該当するデータを一覧化しています。

## データ項目の分類に関する説明

### データ項目の整理イメージ



- 政府CIOポータル標準ガイドラインのデータ項目と各事業分の保有データが含まれているミラサポコネク트의データを今回整理したデータ項目に基づいて分類
- 分類することにより、分類したデータ項目における過不足を確認するとともに、各データ項目に含まれる情報を一覧化し、データ項目における網羅性を確認

### データ項目における過不足の確認

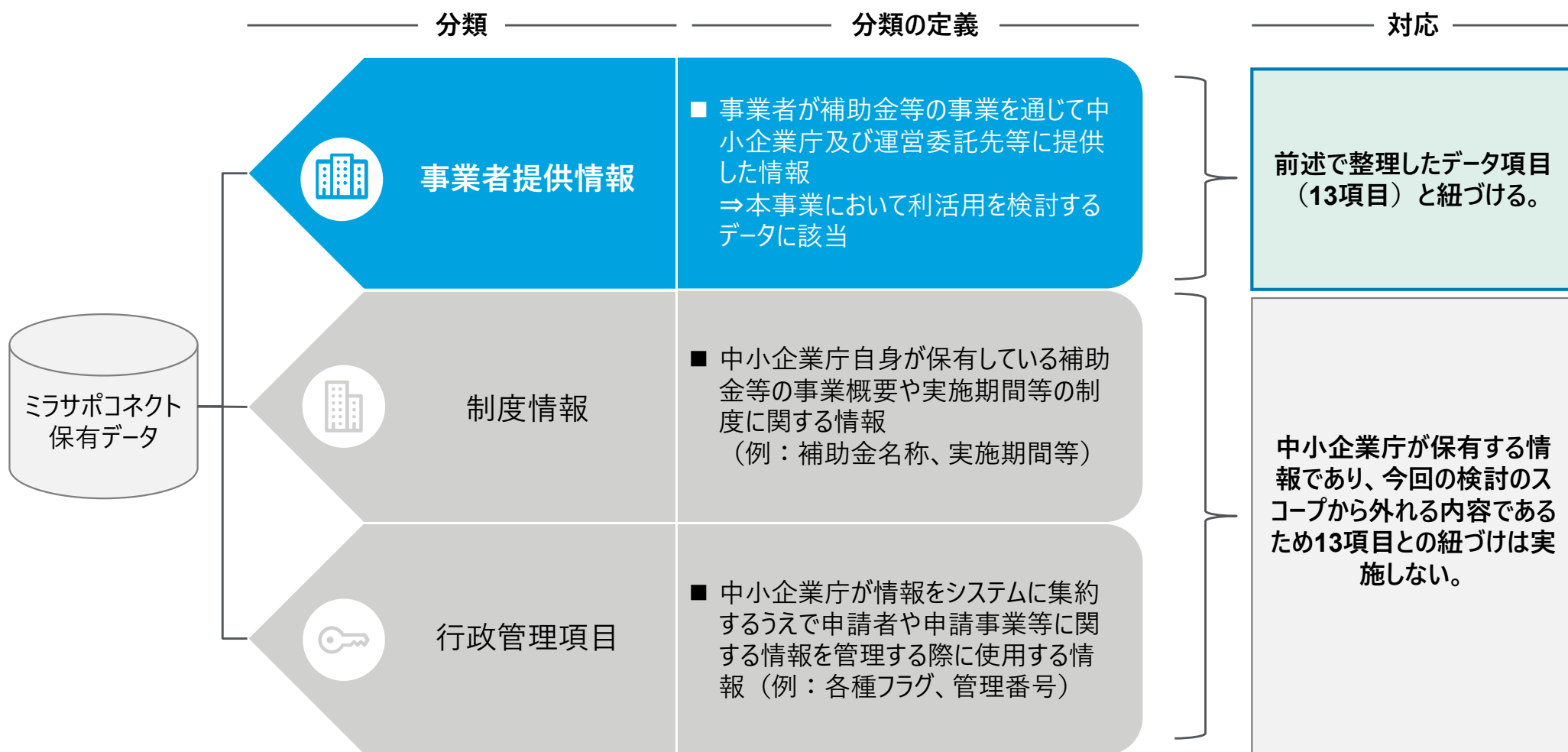
- サポコネク트가保有するデータに対して、各事業が保有するデータとユデータ利活用の目的をベースに整理したデータ項目（13分類）の網羅性を確認し、データ項目の定義から大きく逸脱するデータ項目は基本的でないことを確認した。

### 各データ項目に含まれる情報の一覧化

- ミラサポコネク트가保有するデータに対して、データ項目（13分類）の定義に基づいてデータを分類し、各データ項目に含まれる情報を一覧化した（分類の詳細は後述）。

ミラサポコネクトの保有データは、制度情報や行政管理項目も保有しているものの、事業者提供情報のみを対象としてデータ項目との紐づけを実施します。

## 紐づけ時における課題及び基準



# 活用データの分類の定義に基づいて、ミラサポコネク트가保有するデータ項目を分類しており、解釈・判断にブレが生じる可能性があるデータにおいては詳細な定義を検討します。

## 紐づけ時における課題

-----> : 紐づけにおいて課題なし    ———> : 紐づけにおいて課題あり

| 基本的な考え方         |                                                                                                             |                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                   |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 |                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原則として、データ分類（13分類）の定義に基づき、ミラサポコネク트의保有データ項目を分類する。</li> <li>■ なお、ミラサポコネク트의保有データにおいてentityによる分類があり、基本的にはその分類をベースとして整理している。</li> </ul> |                                                                                                                                   |
| entity名         | 具体例                                                                                                         | データ項目                                                                                                                                                                      | 具体例                                                                                                                               |
| 中小企業基本          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 法人名称</li> <li>■ 本社住所</li> <li>■ 本社設立年月日</li> <li>■ 資本金額</li> </ul> | 1 申請者の識別・属性情報                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ gBizID</li> <li>■ 申請者名（会社名/屋号等を含む）</li> <li>■ 本店住所・代表電話</li> <li>■ 資産額・従業員数</li> </ul>   |
| 申請基本情報          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請担当者氏名・役職</li> <li>■ 補助金申請番号</li> <li>■ 事業名称/目的</li> </ul>        | 2 共同申請者情報                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 連携先情報</li> <li>■ 加入組織情報</li> </ul>                                                       |
| 技術営業のノウハウに関わる情報 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 役員氏名/役職</li> <li>■ 保有知的財産枝番号</li> <li>■ 差別化ポイント</li> </ul>         | 3 事業・営業情報                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業内容</li> <li>■ 特許情報</li> <li>■ 販売先/仕入れ先</li> <li>■ 株主・出資者</li> </ul>                    |
| 承継計画            | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 後継者の育成状況</li> <li>■ 承継のタイミング・関係</li> </ul>                         | 4 承継情報                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業承継形態/事業承継状況</li> <li>■ 承継者の要件</li> <li>■ 承継先の基本情報</li> </ul>                           |
| 財務情報            | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 貸借対照表に係る情報</li> <li>■ 損益計算書に係る情報</li> </ul>                        | 5 担当者情報                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請担当者名</li> <li>■ 申請担当者の所属部署</li> <li>■ 申請担当者の連絡先</li> </ul>                             |
| ローカルベンチマーク      | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力・販売力の強み</li> <li>■ 市場動向</li> <li>■ 競合他社との比較</li> </ul>          | 6 財務情報                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 確定申告書等に係る情報</li> <li>■ 貸借対照表に係る情報</li> <li>■ 損益計算書に係る情報</li> <li>■ ローカルベンチマーク</li> </ul> |

### 課題1

現在の定義上、ローカルベンチマークは「財務情報」に紐づくものの、非財務状況に係る情報を有しており、判断のブレが発生する可能性有

活用データの分類の定義に基づいて、ミラサポコネク트가保有するデータ項目を分類しており、解釈・判断にブレが生じる可能性があるデータにおいては詳細な定義を検討します。

## 紐づけ時における課題

-----> : 紐づけにおいて課題なし    ———> : 紐づけにおいて課題あり

| 基本的な考え方 |                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                            |                                                                                                          |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原則として、データ分類（13分類）の定義に基づき、ミラサポコネク트의保有データ項目を分類する。</li> <li>■ なお、ミラサポコネク트의保有データにおいてentityによる分類があり、基本的にはその分類をベースとして整理している。</li> </ul> |                                                                                                          |
| entity名 | 具体例                                                                                                                                          | データ項目                                                                                                                                                                      | 具体例                                                                                                      |
| 申請内容    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 補助事業名称</li> <li>■ 研究開発の概要</li> <li>■ 事業計画・目標</li> <li>■ 事業実施スケジュール</li> </ul>                       | 7 事業計画                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中期経営計画</li> <li>■ その他事業計画</li> </ul>                            |
|         |                                                                                                                                              | 8 申請事業内容                                                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 申請事業名・概要</li> <li>■ 補助金交付情報</li> <li>■ 補助対象経費</li> </ul>        |
| 状況報告    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 補助金ID</li> <li>■ 導入技術・購入機械装置名</li> <li>■ 知的財産権種類</li> <li>■ 事業開始・終了年月日</li> </ul>                   | 9 審査情報                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 審査点</li> </ul> <p>審査情報に該当するデータ項目は今後追加される予定</p>                  |
| 相談記録    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務効率等における課題</li> <li>■ 大課題区分・中課題区分</li> <li>■ 課題への状況区分</li> </ul>                                   | 10 制度活用情報                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 補助金交付の履歴</li> <li>■ 行政手続きの履歴</li> </ul>                         |
| 支援記録    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 支援実施番号</li> <li>■ 支援開始・終了年月日</li> <li>■ 支援件名</li> <li>■ 支援対象補助金ID</li> <li>■ 支援実施支援機関コード</li> </ul> | 11 課題に係る情報                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業者が抱える課題</li> <li>■ 支援機関への相談内容</li> </ul>                      |
|         |                                                                                                                                              | 12 支援機関情報                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 認定支援機関ID/認定支援機関名</li> <li>■ サービス内容</li> <li>■ 資格保有内容</li> </ul> |
|         |                                                                                                                                              | 13 支援情報                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 支援内容</li> </ul>                                                 |

### 課題2

現在の定義では「事業計画」と「申請事業内容」の差異が不明瞭なことに加えて、営業秘密に該当する情報が含まれており、紐づけにおいて判断のブレが発生する可能性有

# データを紐づけるに当たり、判断・解釈にブレが発生する可能性がある項目に関して、データ項目の定義に加えて新たに紐づけ時の基準を設けています。

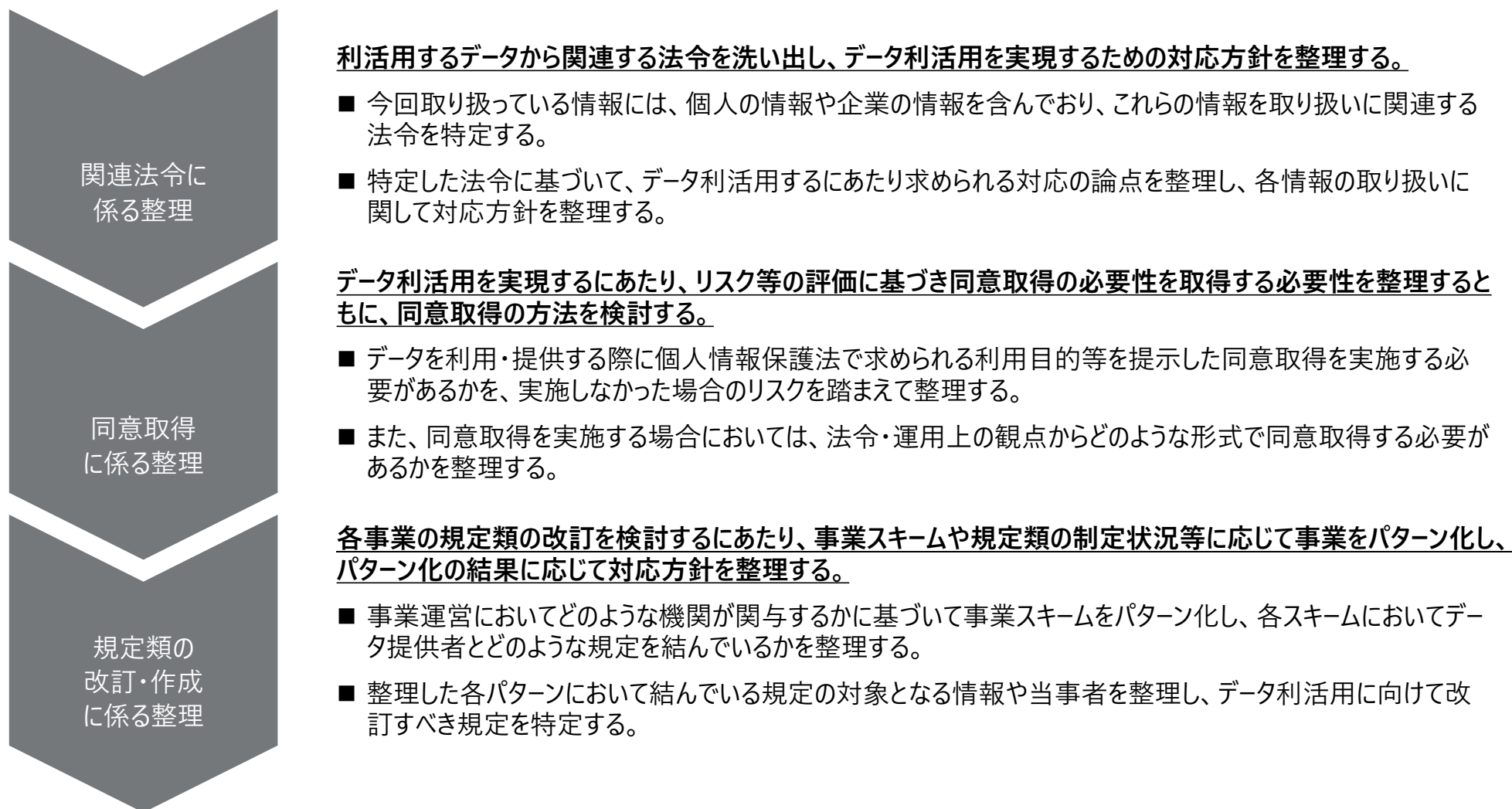
## 紐づけ時の課題に基づいた分類の精緻化

| 紐づけ時の課題                                                                                     | 分類の精緻化内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                           |                                                                                                 |                         |                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>課題1</b><br>現在の定義上、ローカルベンチマークは「財務情報」に紐づくものの、非財務状況に係る情報を有しており、判断のブレが発生する可能性有               | <table><tr><td>「ローカルベンチマーク」<br/>についての分類方針</td><td>■ 「ローカルベンチマーク非財務状況（事業計画）」に係る情報は、「財務情報」に該当しないため、「財務情報」には分類せず、各データ項目名の内容に合わせて他のデータ項目に分類にする。</td></tr><tr><td>「申請事業内容」<br/>に分類するデータ項目</td><td>■ 原則として、事業者が中小企業庁の各事業（補助金、支援等）に対して提出している特定事業に関わる内容は当該項目に分類にする。<br/>■ なお、報告時に提出する実績報告についても、最終的な支給額算定等に使用されることもあるため、当該項目に分類にする。</td></tr></table> | 「ローカルベンチマーク」<br>についての分類方針 | ■ 「ローカルベンチマーク非財務状況（事業計画）」に係る情報は、「財務情報」に該当しないため、「財務情報」には分類せず、各データ項目名の内容に合わせて他のデータ項目に分類にする。       | 「申請事業内容」<br>に分類するデータ項目  | ■ 原則として、事業者が中小企業庁の各事業（補助金、支援等）に対して提出している特定事業に関わる内容は当該項目に分類にする。<br>■ なお、報告時に提出する実績報告についても、最終的な支給額算定等に使用されることもあるため、当該項目に分類にする。 |
| 「ローカルベンチマーク」<br>についての分類方針                                                                   | ■ 「ローカルベンチマーク非財務状況（事業計画）」に係る情報は、「財務情報」に該当しないため、「財務情報」には分類せず、各データ項目名の内容に合わせて他のデータ項目に分類にする。                                                                                                                                                                                                                                                    |                           |                                                                                                 |                         |                                                                                                                              |
| 「申請事業内容」<br>に分類するデータ項目                                                                      | ■ 原則として、事業者が中小企業庁の各事業（補助金、支援等）に対して提出している特定事業に関わる内容は当該項目に分類にする。<br>■ なお、報告時に提出する実績報告についても、最終的な支給額算定等に使用されることもあるため、当該項目に分類にする。                                                                                                                                                                                                                 |                           |                                                                                                 |                         |                                                                                                                              |
| <b>課題2</b><br>現在の定義では「事業計画」と「申請事業内容」の差異が不明瞭なことに加えて、営業秘密に該当する情報が含まれており、紐づけにおいて判断のブレが発生する可能性有 | <table><tr><td>「事業計画」<br/>に分類するデータ項目</td><td>■ 「事業計画」「計画年度売上」等、将来の目標と捉えられる内容は当該項目に分類にする。<br/>■ また、スケジュール及び開始時期・終了時期等、実行の時間軸に関わる内容は当該項目に分類にする。</td></tr><tr><td>「事業・営業情報」<br/>に分類するデータ項目</td><td>■ 申請内容そのものが知的財産の開発、新たな研究・技術の開発等に関するデータ項目については、営業秘密に該当する可能性が高いことから、当該項目に分類にする。</td></tr></table>                                              | 「事業計画」<br>に分類するデータ項目      | ■ 「事業計画」「計画年度売上」等、将来の目標と捉えられる内容は当該項目に分類にする。<br>■ また、スケジュール及び開始時期・終了時期等、実行の時間軸に関わる内容は当該項目に分類にする。 | 「事業・営業情報」<br>に分類するデータ項目 | ■ 申請内容そのものが知的財産の開発、新たな研究・技術の開発等に関するデータ項目については、営業秘密に該当する可能性が高いことから、当該項目に分類にする。                                                |
| 「事業計画」<br>に分類するデータ項目                                                                        | ■ 「事業計画」「計画年度売上」等、将来の目標と捉えられる内容は当該項目に分類にする。<br>■ また、スケジュール及び開始時期・終了時期等、実行の時間軸に関わる内容は当該項目に分類にする。                                                                                                                                                                                                                                              |                           |                                                                                                 |                         |                                                                                                                              |
| 「事業・営業情報」<br>に分類するデータ項目                                                                     | ■ 申請内容そのものが知的財産の開発、新たな研究・技術の開発等に関するデータ項目については、営業秘密に該当する可能性が高いことから、当該項目に分類にする。                                                                                                                                                                                                                                                                |                           |                                                                                                 |                         |                                                                                                                              |

### 3 データ利活用に向けた基本方針の整理

# データ利活用に向けた基本方針を整理するにあたり、関連する法令に基づいて求められる対応を整理した上で、同意取得や規定類の改訂・作成に係る対応を検討します。

## データ利活用に向けた基本方針の整理に向けたアプローチ

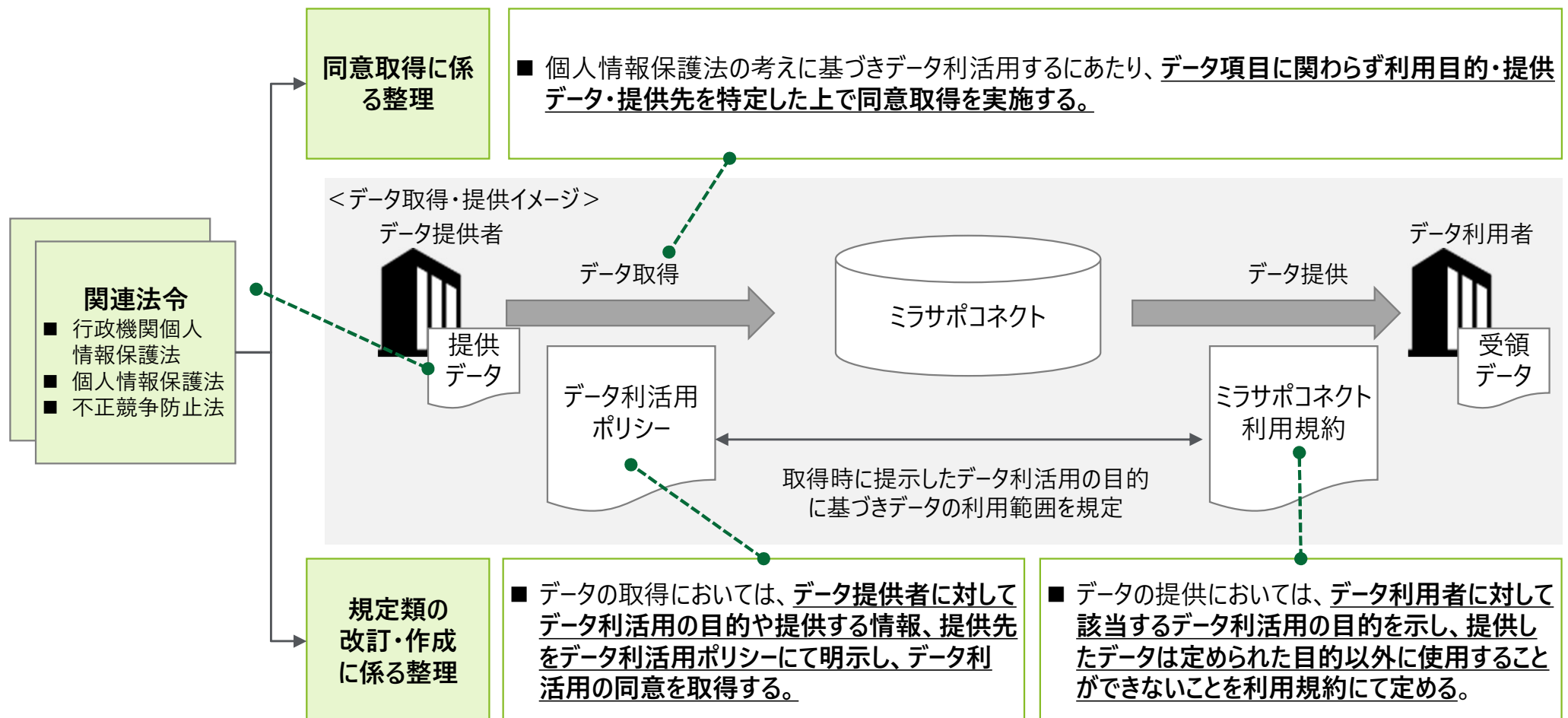


# データ利活用に向けては、個人情報保護法の考え方をベースとして、データ利活用の目的を特定の上、データ提供者・利用者ともに利用に関する同意を取得する方針です。

## 基本方針サマリ

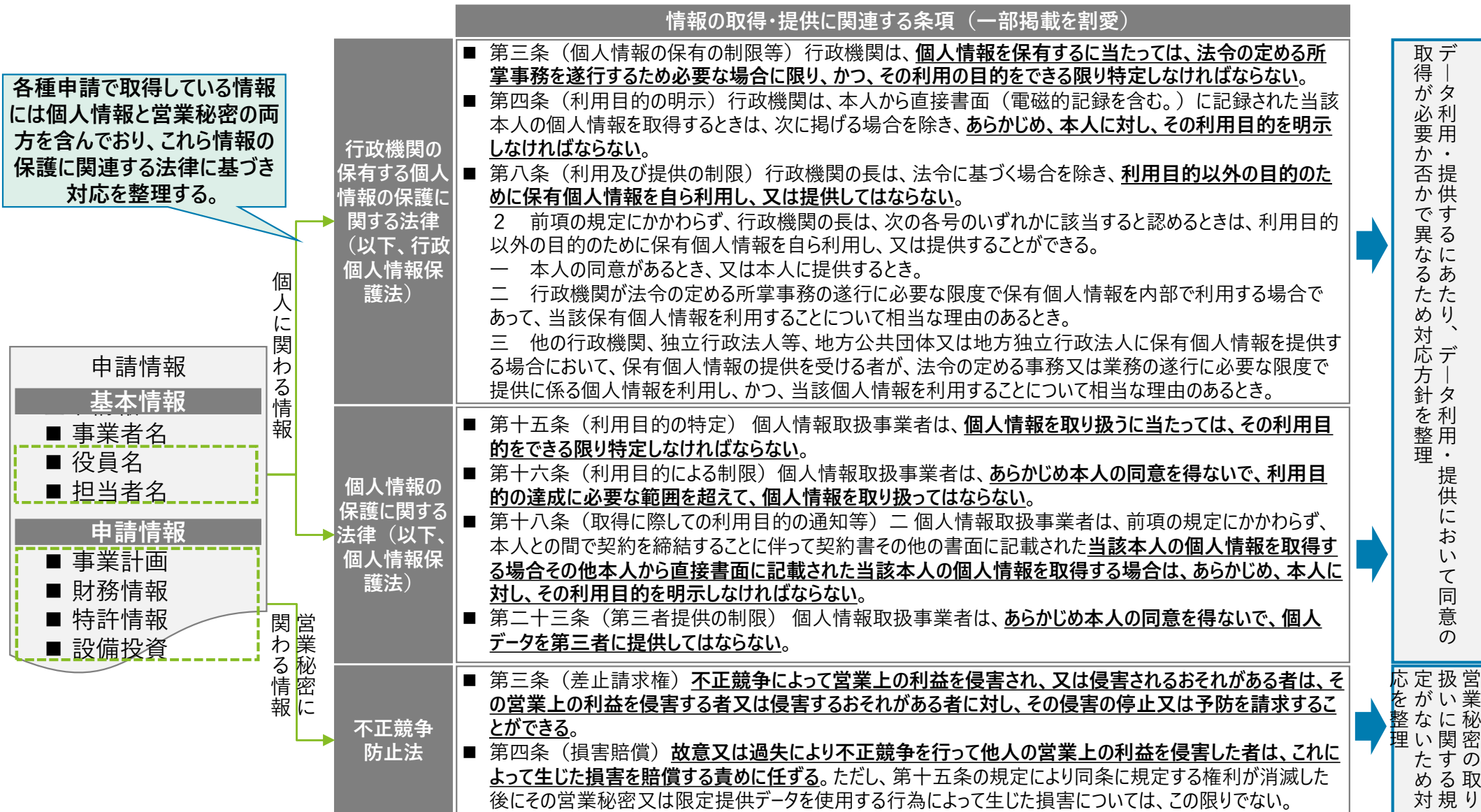
### 基本方針 の考え方

- データ利活用に関する対応方針を整理するにあたり、取り扱うデータを基に関連法令を特定し、その法令で求められる対応及びリスクに基づき基本方針を整理している。
- 個人情報に関しては、データの利用や提供に関する定めがあるものの、営業秘密等においては明確な定めがなく、取扱いのリスク等を鑑み、個人情報保護法の考えに基づき、データ利活用に関する同意取得及び利用目的を特定する方針としている。



# 今回取り扱うデータは個人情報及び営業秘密を含んでおり、主に個人情報の保護に関する法律と不正競争防止法が関連する法令だと考えられます。

## 取扱いデータに対して関連する法令の整理



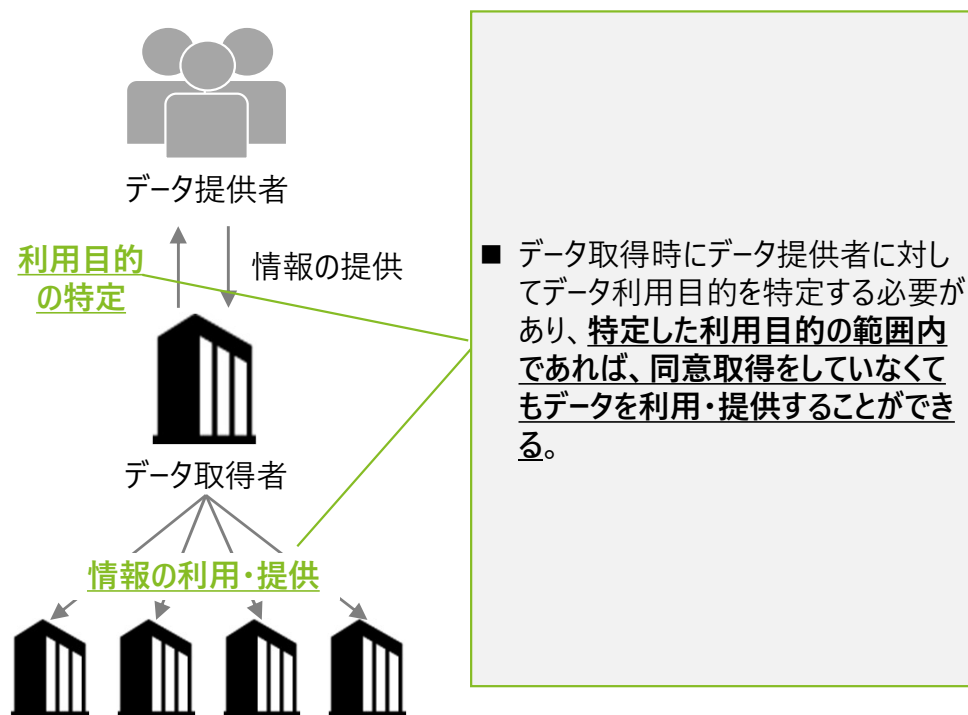
# 行政個人情報保護法と個人情報保護法では、個人データ（保有個人情報）を第三者提供する際の同意取得の必要性において相違があります。

## 行政個人情報保護法と個人情報保護法における相違点

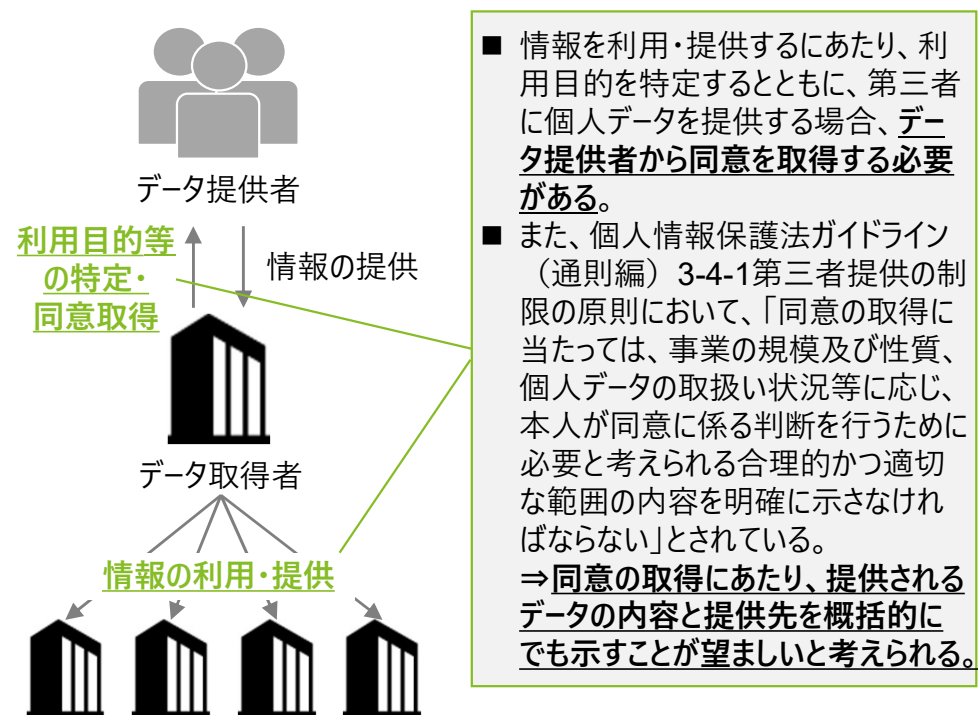
### 概要

- 行政個人情報保護法においては、保有する個人情報の利用目的を特定する必要があり、特定したデータ保有の目的範囲内であればデータを利用・提供することが可能となる。
- 一方で、個人情報保護法においても個人情報の利用目的を特定する必要があるが、利用目的の範囲内であっても個人データを第三者に提供するには本人の同意を取得する必要がある。

### 行政個人情報保護法



### 個人情報保護法



不正競争防止法上の営業秘密に該当する情報か否かは個別具体的な事情により異なるため、該当する可能性がある情報を幅広く捉えながら対応を検討する必要があります。

## 営業秘密の定義

### 営業秘密とは

- 営業秘密とは「有用性」「秘密管理性」「非公知性」の3つの要件に該当する企業の情報を指す。各情報が3つの要件に該当するかは個別具体的な事情により異なるため、どのデータ項目が営業秘密に該当するかは一意に特定することはできない。
- 不正競争防止法では、事業者の営業秘密が不正に利用されるなどの被害にあった場合においては、データ提供者は差止めや損害賠償等の請求ができるため、情報の利用・第三者提供に関しては企業側と同意形成する等の対応が必要になると考えられる。

### 有用性

当該情報自体が客観的に事業活動に利用されていたり、利用されることによって、経費の節約、経営効率の改善等に役立つものである。

### 秘密管理性

営業秘密保有企業の秘密管理意志が秘密管理措置によって従業員等に対して明確に示され、当該秘密管理意志に対する従業員等の認識可能性が確保されている。

### 非公知性

保有者の管理下以外では一般に公開されておらず、入手できない情報である。

出所：経済産業省 営業秘密とは (<https://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/chiteki/trade-secret.html>)

各データ項目を利活用するにあたり、原則、利用目的を明示した上で情報提供者から同意を取得する方針です。

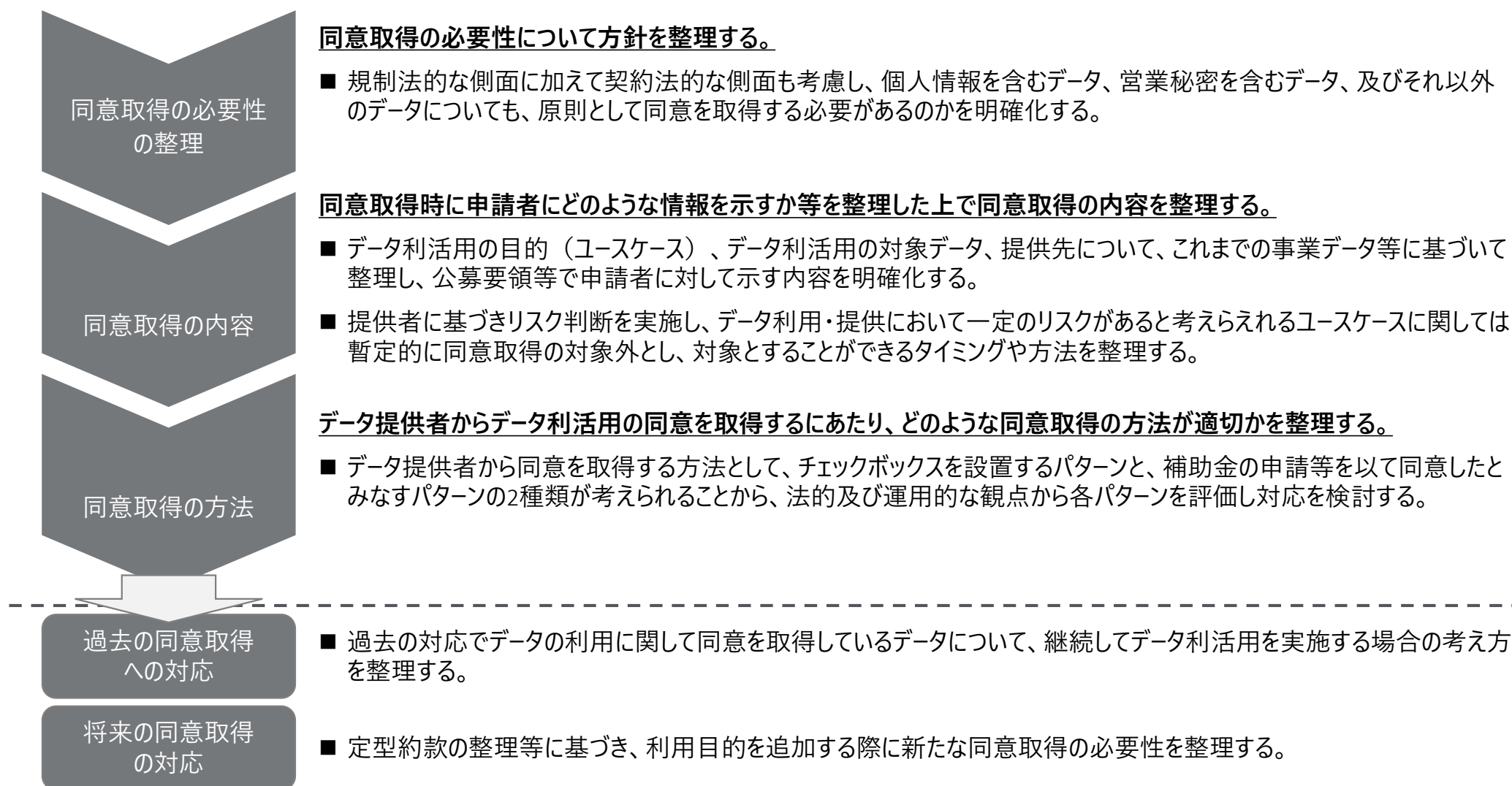
## データ項目の取り扱いの基本方針

|               | 該当データ項目 |             | 判断の根拠                                                                         | データ取扱いのリスク | データ取扱いにおける基本方針 |                                                                                                                   |
|---------------|---------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 個人情報を含むデータ項目  | 1       | 申請者の識別・属性情報 | ■ 主に個人事業主の氏名等、個人の名前が個人情報に該当                                                   | 高          |                | ■ 個人情報保護法に示される通り、データの利用にあたっては同意取得を実施<br>■ また、利用目的（データ利活用の目的、項目、提供先）をできる限り特定した上で同意を取得                              |
|               | 2       | 共同申請者情報     | ■ 共同申請者として、個人事業主が含まれる場合に個人情報に該当                                               |            |                |                                                                                                                   |
|               | 5       | 担当者情報       | ■ 法人の担当者の氏名や所属部署の情報は個人情報に該当                                                   |            |                |                                                                                                                   |
| 営業秘密を含むデータ項目  | 3       | 事業・営業情報     | ■ 特許情報や取引情報等、事業活動において有用となる情報であり一般的に営業秘密に該当                                    | 高          |                | ■ 不正競争防止法において、営業秘密の提供により提供者から差止請求等が行われる可能性があるため、データ利活用にあたっては、同意取得を実施<br>■ また、提供者との認識齟齬を避けるため、利用目的に関しても、同様にできる限り特定 |
|               | 4       | 承継情報        | ■ 事業の承継に関する情報は、経営に係る重要な判断であり、営業秘密に該当する可能性有                                    |            |                |                                                                                                                   |
|               | 6       | 財務情報        | ■ 一般的に中小企業の財務三表は営業秘密に該当                                                       |            |                |                                                                                                                   |
|               | 7       | 事業計画        | ■ 事業計画は、一般的に各社の経営戦略等を含む非公開の情報であり、営業秘密に該当する可能性有                                |            |                |                                                                                                                   |
|               | 8       | 申請事業内容      | ■ 各社が進める事業・研究開発の内容及び投資状況等は営業秘密に該当する可能性有                                       |            |                |                                                                                                                   |
| 上記以外のその他データ項目 | 9       | 審査情報        | ■ 既に公開されている情報や営業秘密に該当しない情報であると想定されることから、原則、データの利用・提供によりデータ提供者に不利益を及ぼす可能性が低い情報 | 低～中        |                | ■ 法的には同意取得等は必要ないが、ハレーションの発生等を抑制する意味で可能な限り同意取得を実施                                                                  |
|               | 10      | 制度活用情報      |                                                                               |            |                |                                                                                                                   |
|               | 11      | 課題に係る情報     |                                                                               |            |                |                                                                                                                   |
|               | 12      | 支援機関情報      |                                                                               |            |                |                                                                                                                   |
|               | 13      | 支援情報        |                                                                               |            |                |                                                                                                                   |

第三者への情報の提供において利用目的を明示の上、同意取得を実施する方針（詳細は後述）

# 同意取得の必要性を整理するとともに、実際に同意取得する際の内容や方法を検討する。

## 同意取得に係る整理のアプローチ



# 個人情報に該当しないデータを第三者へ提供することに対する法規制は無いが、契約に対する不法行為とみなされる可能性を鑑み、同意取得を実施するべきと考えます。



## 同意取得の必要性

|              | 該当するデータ項目の概要                                                                                                                                                                                                         | 同意取得が必要と判断した根拠                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 個人情報を含むデータ項目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人情報を含むことから、行政個人情報保護法又は個人情報保護法の適用を受ける可能性が高いデータ項目</li> </ul>                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 行政個人情報保護法においては、必ずしも同意取得を必要としていないものの、行政機関以外の第三者に情報を提供することから提供者からのクレーム等が発生する可能性を鑑み個人情報保護法に基づいて同意を取得する。</li> </ul>                                                                                                                                                       |
| 営業秘密を含むデータ項目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 営業秘密（以下の条件）に該当する可能性がある情報を有しており、不正競争防止法の適用を受ける可能性が高いデータ項目<br/>【営業秘密の条件】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 有用性</li> <li>➢ 秘密管理性</li> <li>➢ 非公知性</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人情報に該当しない情報について、情報を取得した者がデータ提供者から当該情報の利用や第三者への提供に関して、同意を取得しなければならないといった法規制はない。</li> <li>■ 契約法的な視点から、情報の取扱いについて同意を取得していない場合や同意の範囲があいまいな場合は、申請者から申請の際に公募要領等で同意した内容に対する違反を問われる可能性がある。<br/>※ 公開されている情報においても、公開している主体の同意なく、データを取得した行為に対して不法行為（民法709条）が成立した裁判例有</li> </ul> |
| その他データ項目     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人情報や営業秘密に該当せず、データの公開等により、データ提供者に不利益を及ぼす可能性が低いデータ項目</li> </ul>                                                                                                              | <p>これらのリスクを考慮し、情報の利用や第三者提供について、提供するデータの種類や目的、提供先について同意を取得する方が、申請者からの同意違反を問われるリスクは低減できるものと考えられる。</p>                                                                                                                                                                                                            |

データ利活用の目的に関しても、活用するデータとその提供先によってリスクが変動します。特にリスクの高い項目について、規定類に掲載する利活用の目的から除外します。

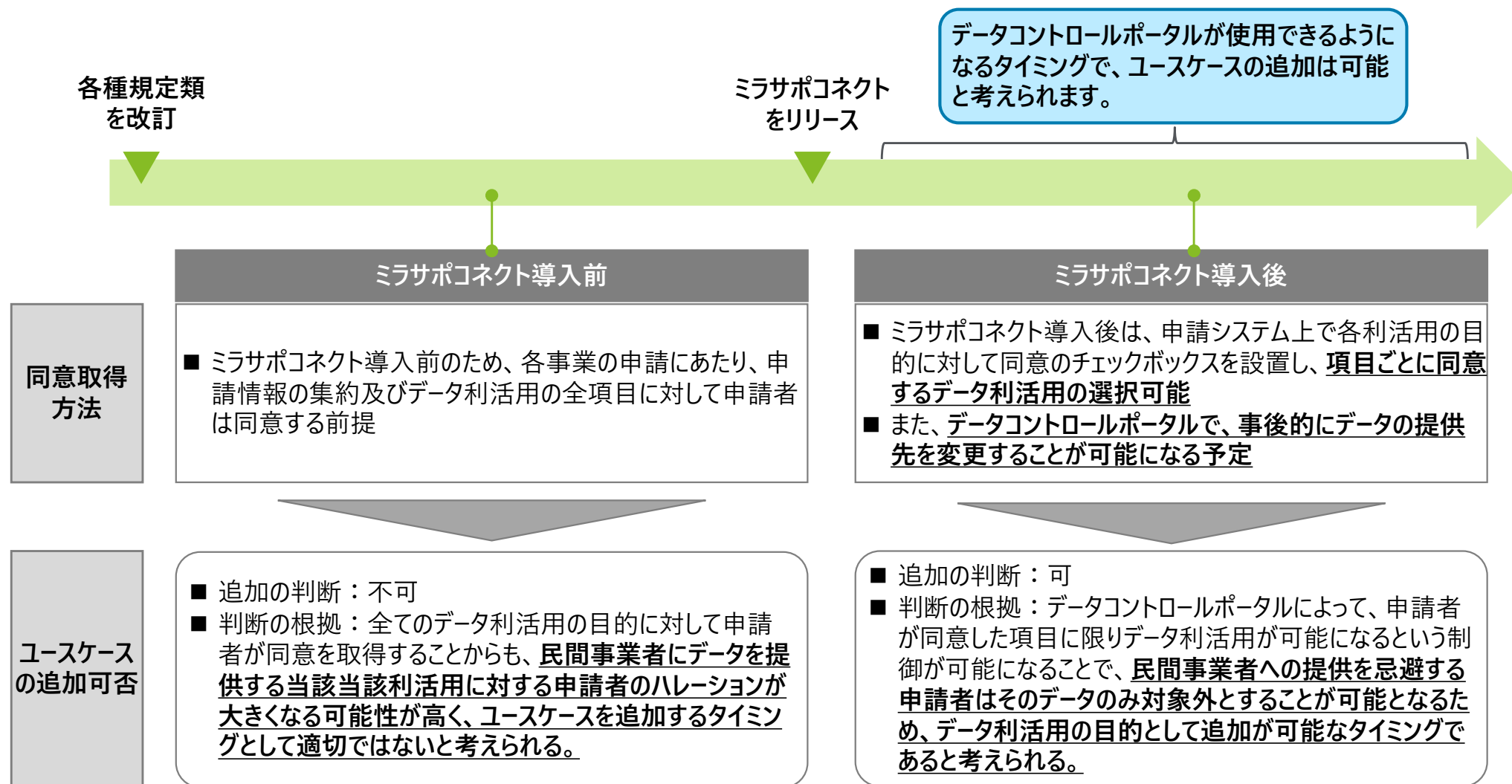
## データ利活用の目的（活用データと提供先）におけるリスク評価と同意取得範囲の特定



| データ利活用の目的 |                                     | 活用データのリスク    |              |          |     | データ利用者のリスク             |     | 対応方針                                                                                                      |
|-----------|-------------------------------------|--------------|--------------|----------|-----|------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |                                     | 個人情報を含むデータ項目 | 営業秘密を含むデータ項目 | その他データ項目 | リスク | データ利用者の範囲              | リスク |                                                                                                           |
| 1         | 行政機関における政策の効果検証（EBPM）の実施（匿名加工無）     | ○            | ○            | ○        | 高   | ・行政機関<br>・研究機関         | 低   | ■ データ利活用の目的として記載する利活用の目的としてリスクは高くないと判断し規定類に反映                                                             |
| 2         | 将来的な申請の円滑化に向けた申請情報の活用（ワンスオンリー等）     | ○            | ○            | ○        | 高   | ・行政機関                  | 低   |                                                                                                           |
| 3         | 中小企業・小規模事業者に対する経営支援情報（補助金や支援者等）の紹介  | ○            | ○            | ○        | 高   | ・行政機関<br>・支援機関         | 低   |                                                                                                           |
| 4         | 効果的な政策立案や経営支援、業務効率化等のための行政機関内での情報共有 | ○            | ○            | ○        | 高   | ・行政機関                  | 低   |                                                                                                           |
| 5         | 販売先・仕入先候補としての他事業者への情報提供             | ○            | ○            |          | 高   | ・事業者<br>・支援機関          | 高   | ■ 取扱いのデータとデータ利用者の範囲ともにリスクが高いことから、 <b>規定類に反映する対象から除外</b><br>■ <b>ただし、今後追加する可能性があることから、追加時に対応を検討（次頁を参照）</b> |
| 6         | 技術提携等に向けた情報提供                       | ○            | ○            |          | 高   | ・事業者<br>・支援機関          | 高   |                                                                                                           |
| 7         | 経営相談に際する支援者による中小企業・小規模事業者の情報の閲覧     | ○            | ○            | ○        | 高   | ・独立行政法人<br>・支援機関       | 低   | ■ データ利活用の目的として記載する利活用の目的としてリスクは高くないと判断し規定類に反映（第三者の事業者には個人情報や営業秘密に該当する情報は公開しない想定）                          |
| 8         | 支援機関の支援実績や専門知見等の見える化                | ○            | ○            | ○        | 高   | ・行政機関<br>・支援機関<br>・事業者 | 低   |                                                                                                           |
| 9         | 事業者・支援機関への支援者情報の提供・マッチング            |              |              | ○        | 低   | ・行政機関<br>・支援機関<br>・事業者 | 低   |                                                                                                           |

申請者が同意する内容を選択できるようになるデータコントロールポータルがリリースがされるタイミングで、除外している目的を追加することでリスクを低減できると考えられます。

## ユースケースを追加するタイミング

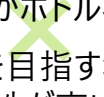
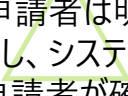


# データ利活用の同意取得に関して、チェックボックスの設置等にかかるコストやリードタイムを鑑み、申請を以てデータ利活用に同意したとみなす対応が現実的であると考えます。



## 同意取得方法に関する検討

|                  |                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 同意取得方法<br>に対する前提 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ データ利活用に向けて、データ提供者からは明示的に同意を取得することが必要と整理している。</li> <li>■ 明示的に同意を取得する方法としては、以下の2パターンが考えられることから法的及び運用的な観点から評価する。<br/>【パターン1】データの利活用に対してチェックボックスにより同意を取得する<br/>【パターン2】申請を以てデータの利活用に同意したとみなす</li> </ul> |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

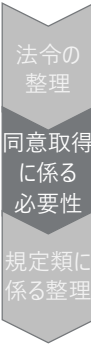
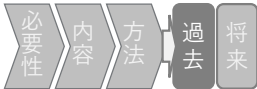
|                                          | 対応内容                                      | 評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                          |                                           | 法的な整理                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 運用的な整理                                                                                                                                                                                                                                          |
| 【パターン1】<br>データの利活用に対してチェックボックスにより同意を取得する | 同意取得において、申請フォーム上に同意する旨を回答するチェックボックスを設置する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特になし</li> </ul>                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各事業の申請システムで同意取得用のページとチェックボックスの設置等の改修が必要となり、時間やコストがボトルネックとなる。</li> <li>■ 早期運用開始を目指す場合、現実的には対応し得ない可能性が高い。</li> </ul>  |
| 【パターン2】<br>申請を以てデータの利活用に同意したとみなす         | 公募要領等に申請を以て同意したものとみなすと明記する。               | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公募要領等で申請者が容易に認識できるような形で明記し、申請という申請者の能動的な行動を条件として同意したものとみなすとしていることから、申請者は明確な同意をしたと整理できる。しかし、システム上での同意の取得とは異なり、申請者が確認した証跡を示せないこともあり、申請者が「確認をしていなかった」等の主張ができる余地を残す。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 規定類の変更のみであるため、比較的容易に対応できる。</li> </ul>                                                                             |



ミラサポコネットのスピーディーな展開に向けては、申請を以て同意とみなすという対応が現実的と考える。

# 過去のデータの利活用については、新たに同意取得を実施しない場合、これまで実施してきた中小企業庁内部での利活用に支障をきたす可能性があります。

## 過去のデータの利活用に係る論点



| これまでの対応   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 今後の対応                                                                                                                                                                                  |  |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| データ利活用の範囲 | <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 中小企業庁内部での利活用を中心に実施しており、例えば、以下のユースケースに該当する利活用を実施してきた。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 行政機関における政策の効果検証（EBPM）の実施</li><li>・ 支援機関の支援実績や専門知見等の見える化（支援機関の評価）</li></ul></li></ul>                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 左記のユースケースは継続して実施する必要がある。</li><li>➤ 加えて、今回追加する7つのユースケースでの利活用を実施する必要がある。</li></ul>                                                               |  |
| 同意取得内容    | <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 事業ごとにばらつきはあるものの、以下のような記載を実施する事で利活用の範囲を明示してきた。<br/><br/>【事業継続力強化計画】<br/>III. 利用目的<br/>II.3. で収集した情報は、審査・広報活動・関係府省庁への報告、および中小企業政策の分析、立案の参考として利用します。<br/><br/>【持続化補助金（低感染リスク型ビジネス枠）】<br/>日本商工会議所に提出された個人情報、補助金交付元である国および独立行政法人中小企業基盤整備機構と共有します。また、以下の目的のために使用します。<br/>①補助金事業の適正な執行のために必要な連絡<br/>②経営活動状況等を把握するための調査（事業終了後のフォローアップ調査含む）<br/>③その他補助金事業の遂行に必要な活動</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 原則としては、新たな公募要領等に基づいて、同意取得を実施する。<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 利用目的（ユースケースの明示）</li><li>➤ 利用データの明示</li><li>➤ 提供先の明示</li></ul></li></ul> |  |

新たな公募要領に同意してもらえない場合や公募要領の改訂が間に合わない場合、これまで実施できていた中小企業庁内部でのデータ利活用に支障をきたす可能性がある。

中小企業庁内でデータを活用していたケースについて、中小企業庁内で活用する限りにおいては、リスクを受容しつつ継続的に活用することが適切であると考えます。

## 過去のデータの利活用に係る対応方針



|                         | 考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 結論                                                                                                          |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行政個人情報保護法の「相当な理由」に基づく活用 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 行政個人情報保護法第八条で、原則として利用目的以外の目的のためにデータを活用できないとしている。</li><li>■ 一方で、本人の利益や社会公共の利益があり、行政機関内部での利活用を実施する場合で、相当な理由があれば利活用可能とされる。</li><li>■ ただし、これまでに示されている例示からすると、相当な理由の範疇は狭く解釈されており、同意取得が必要となると考えられる。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 「相当な理由」と認められない可能性があり、利活用上リスクがある。                                                                            |
| リスクを踏まえた対応              | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 同意取得なしで利活用が可能とまでは言えないとしても、以下の点を考慮すると、中小企業庁内部での利活用には、利活用上のリスクは極めて低いと考えられる。<ul style="list-style-type: none"><li>➢ <u>データ提供者への影響</u><br/>行政機関内部での利活用であり、申請者に対してデータの利活用等を通知することはないため、利活用の実態が顕在化する可能性は極めて低い。</li><li>➢ <u>既存の同意内容との整合性</u><br/>中小企業庁内での利用である限りは、既存の公募要領・プライバシーポリシー等で示していた「審査・広報活動・関係府省庁への報告、および中小企業政策の分析、立案の参考として利用」とい目的から大きく外れる内容ではない。</li><li>➢ <u>顕在化した場合の影響</u><br/>対象のユースケース（EBPM／支援機関の評価等）は、「社会公共の利益」のための活用であり、利活用したことそのものをもって批判を受ける可能性は低いと考えられる。</li></ul></li></ul> | <p>一定のリスクはあるものの、リスクを受容し活用を継続するのが適切と考えられる。</p> <p>※ただし、中小企業庁の外部に提供する場合においては、利活用の目的を特定した上で同意を取得する必要があると思料</p> |

個人情報である限りにおいて、行政機関個人情報保護法に基づいて対応する必要があるが、「相当な理由」や「特別の理由」がある場合は、同意を得ずに利活用が可能となります。

## 行政個人情報保護法における同意取得の必要性



### 原則

保有個人情報の利用目的以外の利用・提供は禁止(8条〔9条〕1項)

### 例外

※本人の同意がなければ目的外利用・提供ができない制度ではない

#### 1. 法令に基づく場合(8条〔9条〕1項)

(例) 刑事訴訟法197条2項に基づく捜査事項照会など

#### 2. 本人の利益や社会公共の利益がある場合等(8条〔9条〕2項)

① 本人の同意／本人に提供

② 行政機関(独法等)内部の利用

③ 他の行政機関等への提供

④ 行政機関等以外の者への提供

+

「相当な理由」(注1)

+

「相当な理由」(注1)

+

専ら統計の作成又は学術研究の目的のために提供

本人以外の者に提供することが明らかに本人の利益になるとき

「特別の理由」(注2)

本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがないことが前提

「相当な理由」の具体的な定義や解釈の範囲が論点となり得る。

(注1): 社会通念上、客観的にみて合理的な理由

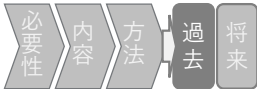
(注2): 行政機関に提供する場合と同程度の公益性があるなど、本来行政機関等で厳格に管理すべき個人情報を、行政機関等以外の者に例外的に提供することが認められるに値する「特別の理由」(「相当な理由」より更に厳格な理由)

10

出所：行政機関等個人情報保護制度の概要（総務省行政管理局）

相当な理由の範疇は非常に狭く解釈されている可能性があり、次頁で示す契約法的観点を考慮しても原則として同意取得を厳格に実施するのが適切であると考えます。

【ご参考】本人の利益や社会公共の利益がある場合の例



法令の整理  
同意取得に係る必要性  
規定類に係る整理

|                | 行政機関から |                                       | 独立行政法人等から         |                                                |
|----------------|--------|---------------------------------------|-------------------|------------------------------------------------|
| ①本人の同意/本人に提供   | 国税庁    | 個人課税台帳の一部<br>本人の同意                    | 年金記録確認地方第三者委員会    | 本人                                             |
|                |        |                                       | 国立病院機構            | 診療録の全部                                         |
|                |        |                                       | 自動車事故対策機構         | 運行管理者基礎講習受講者名簿の一部<br>運行管理者試験の受験資格の確認のため(本人の同意) |
| ②行政機関等内部の利用    | 法務省矯正局 | 被収容者人名簿の一部<br>強制退去手続のため               | 法務省入国管理局          | 本人                                             |
|                |        |                                       | 筑波大学学生生活課         | 学籍ファイルの一部<br>授業料債務者情報作成のため                     |
| ③他の行政機関等への提供   | 法務省    | 日本人出帰国記録マスタファイルの一部<br>海外における邦人保護業務のため | 外務省               | 公益財団法人運行管理者試験センター                              |
|                |        |                                       | 労働者健康福祉機構(労災病院)   | 患者情報データベースの一部<br>救急搬送患者等の身元確認等のため              |
| ④行政機関等以外の者への提供 | 宮内庁    | 勲章・褒章拝謁者名簿の全部<br>皇室活動を広く紹介するため        | 報道機関              | 警察署<br>消防署                                     |
|                | 法務省    | 外国人出入国記録マスタファイルの一部<br>東日本大震災後の安否確認のため | 外国公館<br>本人の親族又は知人 | 国民年金基金連合会                                      |
|                |        |                                       | 農業者年金基金           | 国民年金基金への誤加入防止のため<br>被保険者ファイルの一部                |

出所：行政機関等個人情報保護制度の概要（総務省行政管理局）

# 規定類の変更する際に申請者から同意を取得しないケースも一般に存在していますが、利用目的等に関する変更を行う場合には同意取得が必要だと考えます。

## 規定類変更時の同意取得の必要有無について



### 前提

- 本事業の特性から、プラットフォーム上でサービスを提供し、収集したユーザーの情報を基に多様なビジネス（特に目的の異なる新たなビジネス）を展開している企業として、Amazonや楽天等の、プラットフォーマー型の企業を対象に利用規約を調査した結果、原則、企業が規約の内容を変更することができる状況となっている。（当該企業の利用規約に、原則、企業が規約の内容を変更でき、ユーザーがアクセス・利用をした時点で変更した規約に同意したとみなす旨の記載有）
- そのため、中小企業庁の事業に関わる規定類の変更において、申請者から同意を取得する必要性を検討する。

### 対応方法

#### ユースケース追加時に同意取得を実施しない対応

- 規定類にユースケースを追加し、申請者から変更箇所に関する同意の回答を得ずに、規定類の変更を完了したとみなす。
- なお、規定類の変更内容に関しては申請者に事前に通知する。

#### 同意取得を実施しない対応を選択するための論点

同意取得を得ずに規定類を変更するためには以下の条件を満たす必要がある。

- A) 定型約款とみなせるかどうか
- B) 定型約款とした場合、同意取得無で対応可能な範囲の変更

### 推奨

#### ユースケース追加時に同意取得を実施する対応

- 規定類にユースケースを追加した上で、改めて申請者から変更に関する同意を取得する。
- 【同意取得のタイミング】
- 新規申請：ユースケース追加時に新しい規約で同意を取得する
  - 変更・更新申請：新規追加時から追加になった場合に、追加分のみ同意を取得する。
- 原則、ミラサポコネクト経由で追加の同意取得を実施する。
- ※システム上、同意済みの方に追加同意取得依頼を出せるかは要確認

申請者から同意取得せずに規約を変更するためには、いずれの条件も満たしている必要があるが、今回の変更に関しては条件を満たしていない可能性が高いと考えられます。

## 申請者から同意取得を得ずに規定類を変更するための条件



|                                 | 要件                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 弊社見解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A<br>定型約款とみなせるかどうか              | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 以下の2点を満たす契約である必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 定型約款準備者が不特定多数の者を相手方として行う取引（当事者要件）</li> <li>➢ その内容の全部または一部が画一的であることがその双方にとって合理的なもの（画一性・合理性要件）</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 定型約款はその内容の全部又は一部が画一的であることが双方にとって合理的なものをいうとされていますが、<u>データコントロールポータルでデータの第三者提供の範囲を申請者毎に設定できることから、同意内容が申請者間で画一的であるといえなく、定型約款とみなせない可能性がある。</u></li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| B<br>定型約款とした場合、同意取得無で対応可能な範囲の変更 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 要件①もしくは要件②のいずれかを満たす必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>【要件①】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 定型約款の変更が、相手方の一般の利益に適合するとき（利益変更）</li> </ul> </li> <li>【要件②】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 定型約款の変更が、契約をした目的に反せず、かつ、変更の必要性、変更後の内容の相当性、この条の規定により定型約款の変更をすることがある旨の定めの有無及びその内容その他の変更に係る事情に照らして合理的なものであるとき</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> | <p>いずれも同意取得無で対応可能な範囲の変更とは言えない可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 要件①について <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <u>民間事業者に自身の営業秘密を含む情報を提供することは申請者にとって利益となると言い切れず、要件を満たさない可能性がある。</u></li> </ul> </li> <li>■ 要件②について <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 民間事業者のデータ提供は他のユースケースと提供先が異なり、契約した目的と反していると考えられる。</li> <li>➢ 「その他の変更に係る事情」において、<u>民間事業者に対して自身の営業秘密を含む情報を提供する場合等、申請者にとって不利益がある等、「合理的なもの」と評価できない可能性がある。</u></li> </ul> <p>なお、不利益を軽減させる措置、例えば、事後に公開先を変更できるデータコントロールポータル等により、不利益を軽減させ、合理的と解釈し得るようなケースも考え得るが、<u>単年度で終わる事業においてユースケースを追加した後に申請者が同意内容を変更する時間的な猶予や誘導が十分に実施できるとは言い切れず、十分な措置と言えない可能性がある。</u></p> </li> </ul> |



A・Bともに、申請者からの同意取得なく規定類を変更するための要件を満たしていない可能性があることから、ユースケース追加時に同意取得を実施する対応を推奨する。

民間事業の場合、利用規約が定型約款とみなせることに加え、契約している目的に反しない程度の変更であるため、同意取得無で利用規約を変更することが可能となっています。

## 【ご参考】プラットフォーム上でサービスを提供する民間事業の例



### Amazon

利用規約（引用：<https://www.amazon.co.jp/gp/help/customer/display.html?nodeId=GLSBYFE9MGKKQXXM>）

- サイトの運営方針、変更、可分性
  - 当サイトに掲載されている、価格などについての当サイトの運営方針をよくお読みください。これらの方針は、お客様のAmazon.co.jpのご利用も規制します。Amazon.co.jp は、当サイト、方針、利用規約をいつでも変更できる権利を保有します。この規約の一部が不正または無効である、何らかの理由で施行できない場合は、その規約は可分であるとみなされ、それ以外の規約の有効性および拘束力に影響を及ぼすことはありません。

- 画一的かつ不特定多数との契約であることから、定型約款とみなすことができると考えられる。
- また、既存のサービスを前提としていることから変更内容が契約している目的に大きく反しないと考えられることと、規約上で発行者が規約を変更できるものと定めており、利用者からの同意取得なしで利用規約の変更が実施できる状況であると考えられる。

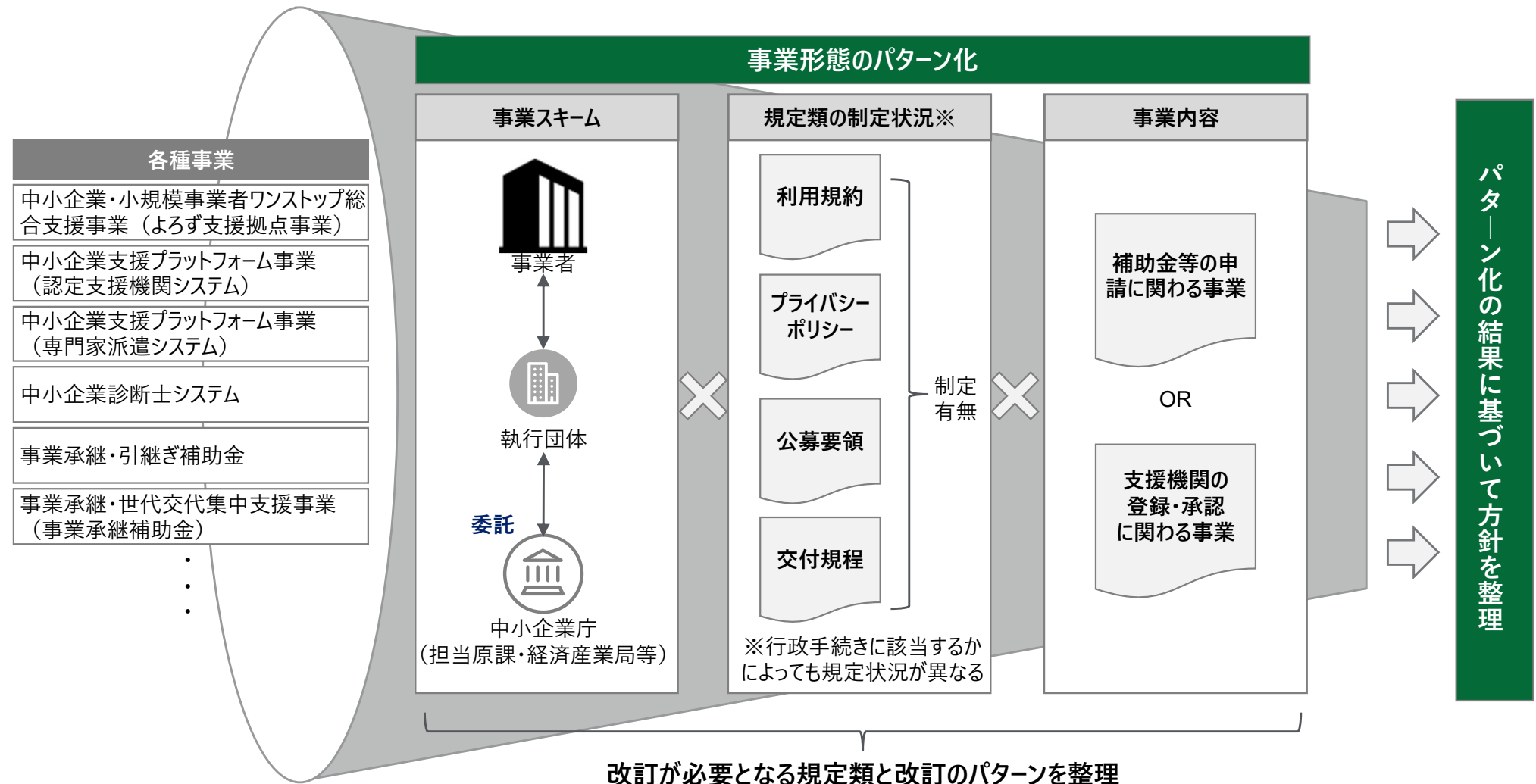
### 楽天市場

楽天ショッピングサービスご利用規約（引用：[https://www.rakuten.co.jp/doc/info/rule/ichiba\\_shopping.html](https://www.rakuten.co.jp/doc/info/rule/ichiba_shopping.html)）

- 楽天グループ株式会社がおお客様に対し、インターネット上でショッピングサービスを提供するにあたって、以下の利用規約を制定しております。お客様が本サービスをご利用された場合、本規約に同意したものとみなされますので、よくお読みください。  
本規約は、ショッピングサービスの利用に関するルールや権利関係を明確化したもので、サービス内容には一切変更ございません。
- 第3条（付帯サービスの追加・変更等）
  - 当社は、事前にお客様に通知することなく、本サービスに付帯するサービス（以下「付帯サービス」といいます。）を適宜追加し、または当該サービスの内容を変更することがあります。お客様が当該サービスを利用する場合、追加、変更後の当該サービスに適用される規約、ガイドライン等に従うものとします。
- 第8条（個人情報の取扱い）
  - 8. 本方針の変更 ※楽天グループの個人情報保護方針より  
私たちは、本方針を、法令変更への対応の必要性および事業上の必要性等に応じて、随時、変更および改正する場合があります、当該変更等について、このウェブサイト上に掲載します。お客様は、このウェブサイト上に掲載される変更等の後の最新の本方針の内容を十分にご確認ください。

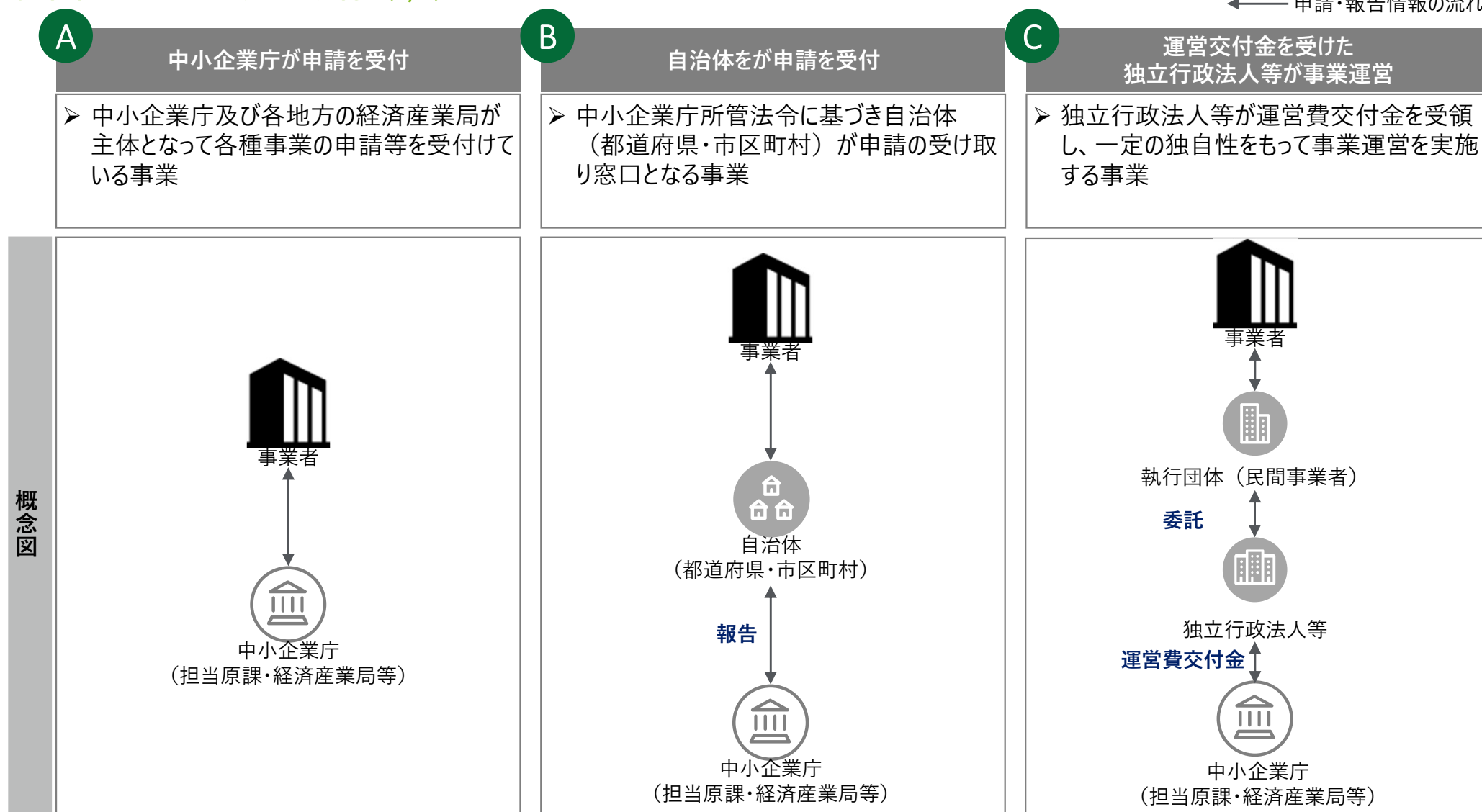
各事業の規定類の改訂を検討するにあたり、事業形態や規定類の制定状況等に応じて事業をパターン化し、パターン化の結果に応じて対応方針を整理します。

## 規定類の改訂に向けた検討におけるアプローチ



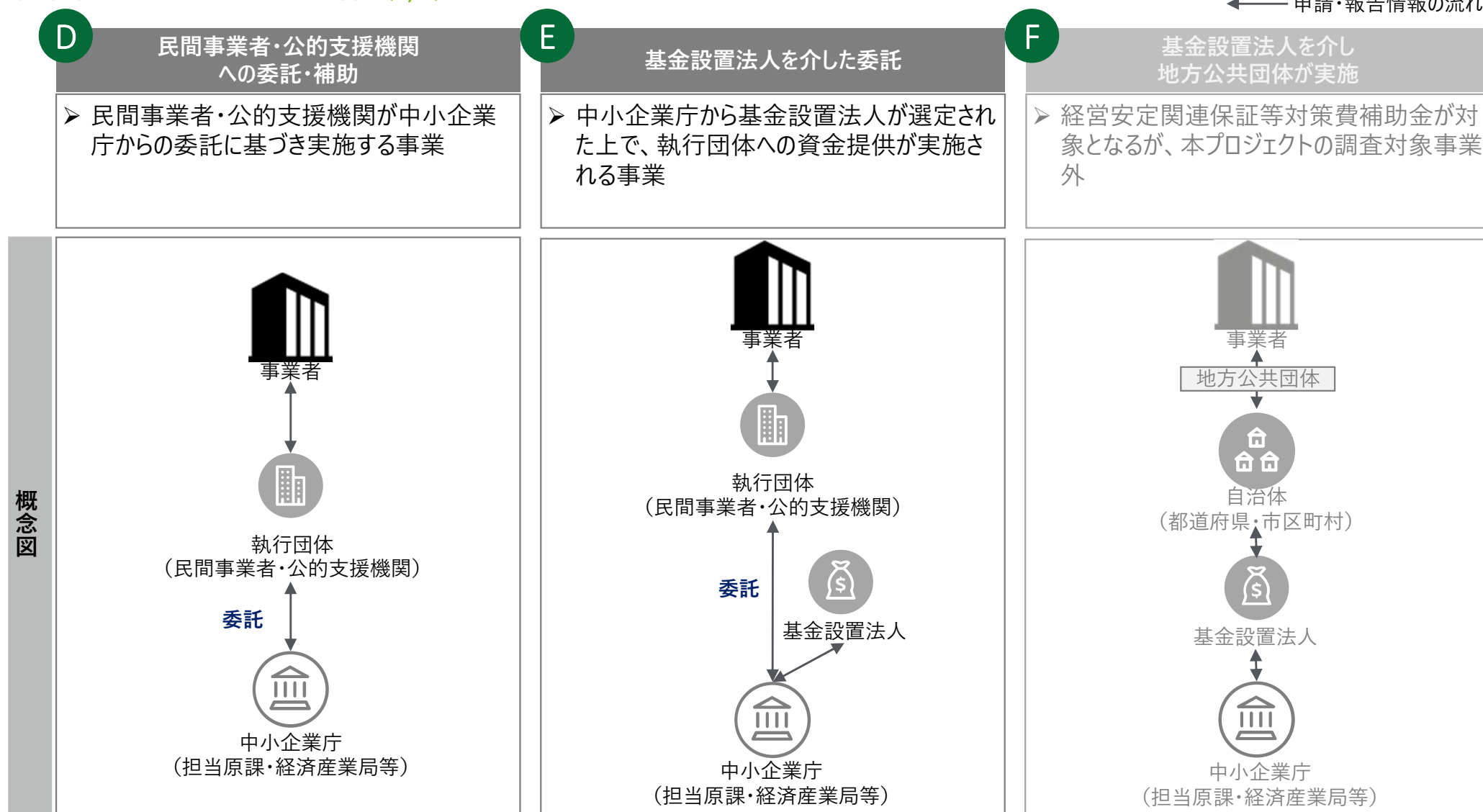
# 事業形態パターンは事業スキームによって6種類に分類可能であり、大きく分けると中小企業庁が直接実施する事業とそれ以外で規定類に差異があります。

## 事業形態パターンと規定・規約（1/3）



# 事業形態パターンは事業スキームによって6種類に分類可能であり、大きく分けると中小企業庁が直接実施する事業とそれ以外で規定・規約に差異があります。

## 事業形態パターンと規定・規約（2/3）

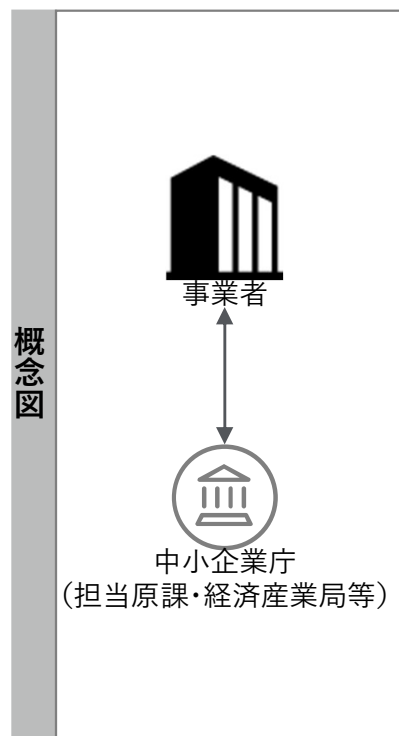


# 事業形態パターンAにおいて、行政手続きに該当する・しない事業、申請事業・支援機関登録事業に細分化することで各種規定の制定状況を整理します。

## 事業形態パターンと規定・規約（3/3）

**A 中小企業庁が申請を受付**

➤ 中小企業庁及び各地方の経済産業局が主体となって各種事業の申請等を受付けている事業



各種規約・規定類において改訂が必要な規約を特定するために、行政手続きに該当するかで分類

| データの内容に紐づくユースケースを特定するために申請事業、支援機関登録事業とそれ以外で分類 |                                        |                                            |                                            |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------|
|                                               | 申請事業※1                                 | 支援機関登録事業※2                                 | その他事業                                      |
| 行政手続きに該当する事業                                  | <div>A1</div> <div>行政手続きの申請事業</div>    | <div>A2</div> <div>行政手続きの支援機関登録事業</div>    | <div></div> <div>該当無</div>                 |
| 行政手続きに該当しない事業                                 | <div>A3</div> <div>行政手続きではない申請事業</div> | <div>A4</div> <div>行政手続きではない支援機関登録事業</div> | <div>A5</div> <div>行政手続きではない事業（個別検討）</div> |

※1 補助金等の申請に関わる事業のこと

※2 支援機関の登録・承認に関わる事業のこと

# 各事業を事業形態パターンに分類した上で、各種対応を実施します。

## 各事業形態パターンに該当する事業

| A 中小企業庁が申請を受付                                                                                                           | B 自治体をはが申請を受付                                                                              | D 民間事業者・公的支援機関への委託・補助                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>A1</b> 行政手続きに該当する申請事業<br>11:経営力向上計画<br>12:【所得拡大促進税制】経営力向上に係る事業実施状況の報告<br>20:事業継続力強化計画の申請                             | 19:経営革新計画の申請                                                                               | 1:中小企業等連携組織対策費事業(中小企業組合等指導・支援事業)<br>2:中小企業等連携組織対策費事業(諸制度改正に伴う専門家派遣等事業)(全国中央会)<br>3:中小企業・小規模事業者ワンストップ総合支援事業(よろず支援拠点事業)<br>8:事業承継・引継ぎ補助金<br>9:事業承継・世代交代集中支援事業(事業承継補助金)<br>10:事業承継・引継ぎ推進事業(事業承継トライアル実証事業)<br>14:ものづくり・商業・サービス高度連携促進事業費 |
| <b>A2</b> 行政手続きに該当する支援機関登録事業<br>4:中小企業支援プラットフォーム事業(認定支援機関システム)<br>6:中小企業診断士システム<br>18:情報処理支援機関<br>24:商工会等の経営発達支援計画の認定申請 | <b>A4</b> 行政手続きに該当しない支援機関登録事業<br>5:中小企業支援プラットフォーム事業(専門家派遣システム)<br>26: M&A支援機関の登録制度         | <b>E</b> 基金設置法人を介した委託                                                                                                                                                                                                               |
| <b>A5</b> 行政手続きに該当しない事業(その他)<br>7:中小企業支援プラットフォーム事業(ミラサポplus)<br>21:中小企業行政に関する苦情若しくは意見の申出又は照会                            | <b>C</b> 運営交付金を受けた独立行政法人等が事業運営<br>13:ものづくり補助金<br>22:持続化補助金(低感染リスク型ビジネス枠)<br>23:持続化補助金(一般型) | 17:事業再構築補助金                                                                                                                                                                                                                         |

※パターンFは対象事業がないため記載無

# 事業類型化に応じて、以下の通り規定の改訂もしくは作成を実施します。

## 各事業形態パターンにおける規定の制定状況と対応方針

○：全事業で該当 △：一部事業で該当

|                                                |                               | 行政<br>手続き | 規定の制定状況  |                |          |          | 対応方針                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------|-------------------------------|-----------|----------|----------------|----------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                |                               |           | 利用<br>規約 | プライバシー<br>ポリシー | 公募<br>要領 | 交付<br>規定 |                                                                                                                                                                                                                         |
| A<br>中<br>企<br>庁<br>が<br>申<br>請<br>を<br>受<br>付 | A1<br>行政手続き<br>に該当する申請事業      | ○         | △        | ○              |          |          | <b>行政手続きに該当する申請・登録事業</b><br><br><b>利用規約の改訂又は作成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 利用規約が既にある事業は文言を改訂する想定</li><li>■ 利用規約が存在しない事業は利用規約を新規に作成</li></ul>                                                            |
|                                                | A2<br>行政手続きに該当する<br>支援機関登録事業  | ○         | △        | ○              |          |          |                                                                                                                                                                                                                         |
|                                                | A3<br>行政手続きに該当しない<br>申請事業     |           |          |                | ○        | ○        | <b>行政手続きに該当しない申請・登録事業</b><br><br><b>公募要領・交付規程を改訂</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 申請者に対する規定である公募要領に対して、データ利活<br/>用の目的を追加する等の改訂を実施</li><li>■ 原則、交付規程の改訂は不要とするものの、交付規程と公<br/>募要領で矛盾が生じる事業は交付規程の改訂も実施</li></ul> |
|                                                | A4<br>行政手続きに該当しない<br>支援機関登録事業 |           |          |                | ○        |          |                                                                                                                                                                                                                         |
|                                                | A5<br>行政手続きに該当しない事<br>業（その他）  |           |          |                |          |          |                                                                                                                                                                                                                         |
| B                                              | 自治体のが申請を受付                    | ○         |          |                |          |          | <b>その他事業</b><br><br><b>個別検討</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ ミラサポplusや申し立ての受付等、特定の事業形態にパター<br/>ン化できない事業であり、各事業においてデータ利用範囲を<br/>定める規定に利活用の目的を追加する想定</li></ul>                                                 |
| C                                              | 運営交付金を受けた<br>独立行政法人等が事業運営     |           |          |                | ○        | ○        |                                                                                                                                                                                                                         |
| D                                              | 民間事業者・公的支援機関<br>への委託・補助       |           |          |                | ○        | ○        |                                                                                                                                                                                                                         |
| E                                              | 基金設置法人を介した委託                  |           |          |                | ○        | ○        |                                                                                                                                                                                                                         |
| F                                              | 基金設置法人を介し<br>地方公共団体が実施        | 該当事業なし    |          |                |          |          |                                                                                                                                                                                                                         |

# データ利活用に関する同意を取得するにあたり、利用規約もしくは公募要領を改訂する必要があります。

## 改訂が必要となる規定の特定

### 行政手続きに該当する申請・登録事業

#### 利用規約

- 自補助金等の事業や申請システムを利用する事業者に対して、利用方法やそこで取得した情報の利用範囲が定められている。
- 一般的にサービス提供に関する全般のルールが定められている。

#### プライバシーポリシー

- 個人情報をどのように取り扱うかが定められている。
- 一般的に個人情報のみを対象としてポリシーは作成される。

中企庁がHP上に公開しているプライバシーポリシーは基本的にサイトで取得した個人情報の取り扱いに関する方針が定められており、サービス提供に関するルールは利用規約に定められていることから、原則として利用規約を改訂する必要があると考える。

### 行政手続きに該当しない申請・登録事業

#### 公募要領

- 補助金等の申請方法や申請に関わるルールが定められている。
- 申請時に提供されるものであるため、非採択者を含む申請者全体に対して適用される。

#### 交付規程

- 補助金の交付に関する手続き方法や交付に関わるルールが定められている。
- 補助金の交付の際して適用されるため、採択者のみが対象となる。

個社支援やEBPMの実施において、非採択者のデータを含めた全てのデータを利活用する想定のため、申請者全体に適用される公募要領を改訂することが適切だと考える。

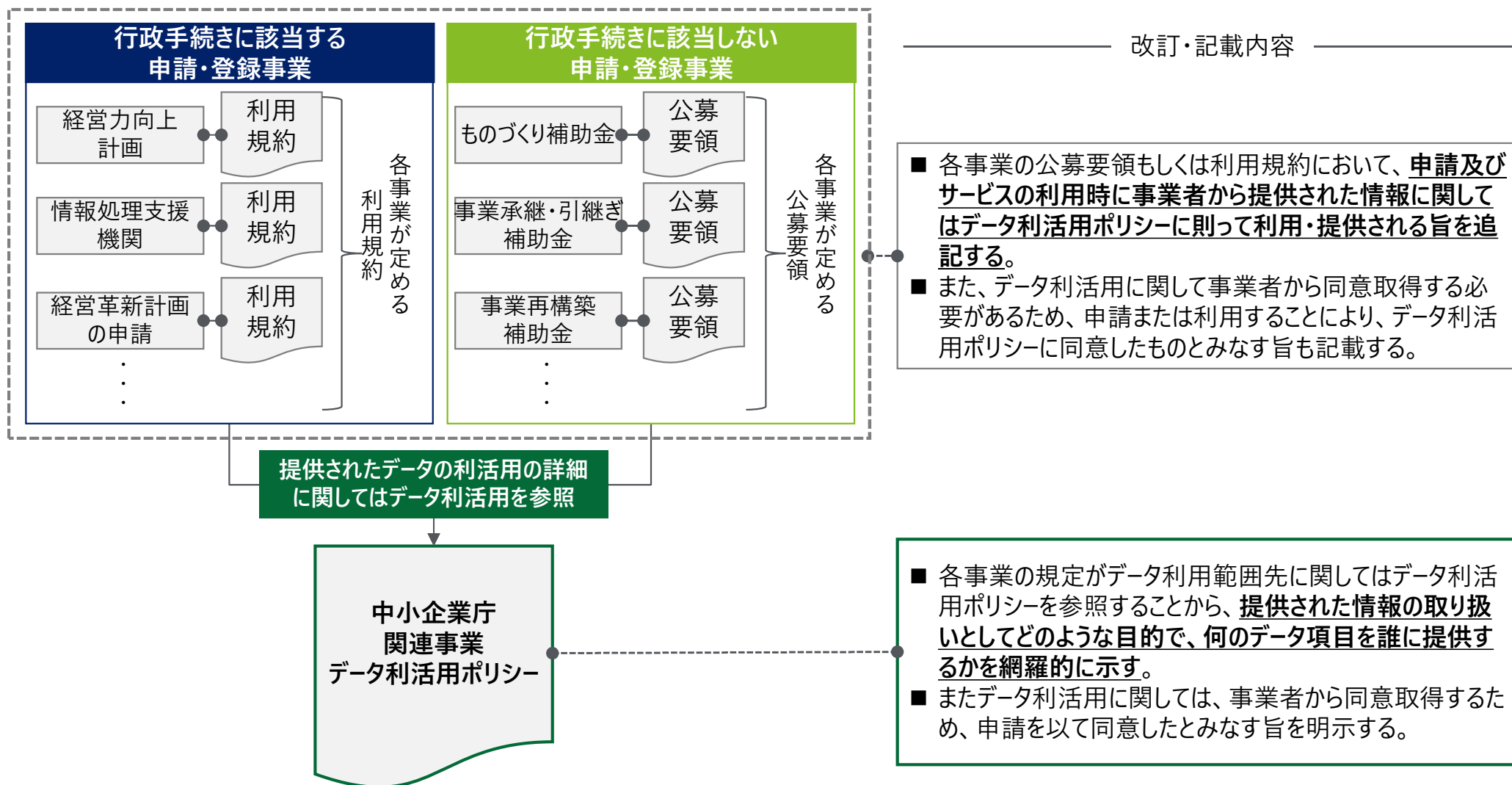
各種規定の位置づけ

改訂対象

## 4 データ取得時における対応

データ利活用の同意を取得するにあたり、データ利活用の目的等はデータ利活用ポリシーに明示し、各事業の規定類にデータ利用に関しては同ポリシーに従う旨を記載します。

## データ取得に関わる規定の全体像



# データ利活用ポリシーにおいて、データ提供者からデータ利用目的に対する同意を取得するため、情報の取り扱いや同意取得に関する対応方針を明示します。

## データ利活用ポリシーの構成

|                 |            | 規定内容                                                                                                                                                 |
|-----------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取得した情報の取り扱いについて | 申請情報       | ■ 補助金等の事業において取得した情報を利活用するため、利用目的や提供するデータ項目、提供先を提示し、データの利用範囲をデータ提供者に対して明示し利用範囲を定める。（具体的な「利用目的」「提供データ項目及びその定義」「提供先」に関しては一覧の表にまとめて掲載する。）                |
|                 | 第三者が含まれる情報 | ■ 補助金等の申請時に提供する情報には、共同申請者の情報等、申請している事業者以外の情報も含まれている場合もあり、その情報についても利活用する可能性があることから、第三者が含まれる情報の提供に関しては事業者自身で第三者から承諾を得る旨を定める。                           |
|                 | 補助金の採択者情報  | ■ 採択者の情報に関してはサイト上で一般に公表する想定のため、その情報を公表する旨と公開される可能性がある内容をデータ提供者に明示する。                                                                                 |
| 同意取得について        |            | ■ データを利活用するにあたりデータ提供者から同意を取得する必要があるため、今回の対応においては申請を以て同意したこととみなす方針であることから、その旨を明記する。<br>■ また、支援機関に情報を提供するにあたっては、事業者自身が個別に開示を承認する仕組みを導入することから、その旨を明記する。 |
| 提供先における情報管理について |            | ■ 支援機関や大学等の研究機関に対して情報を提供することから、提供するデータの取り扱いに関しては適切な管理を義務付ける旨を明記する。<br>■ また、提供する先に関しては誓約書を取り交わすことや、個別に申請者に同意取得する旨も示す。                                 |

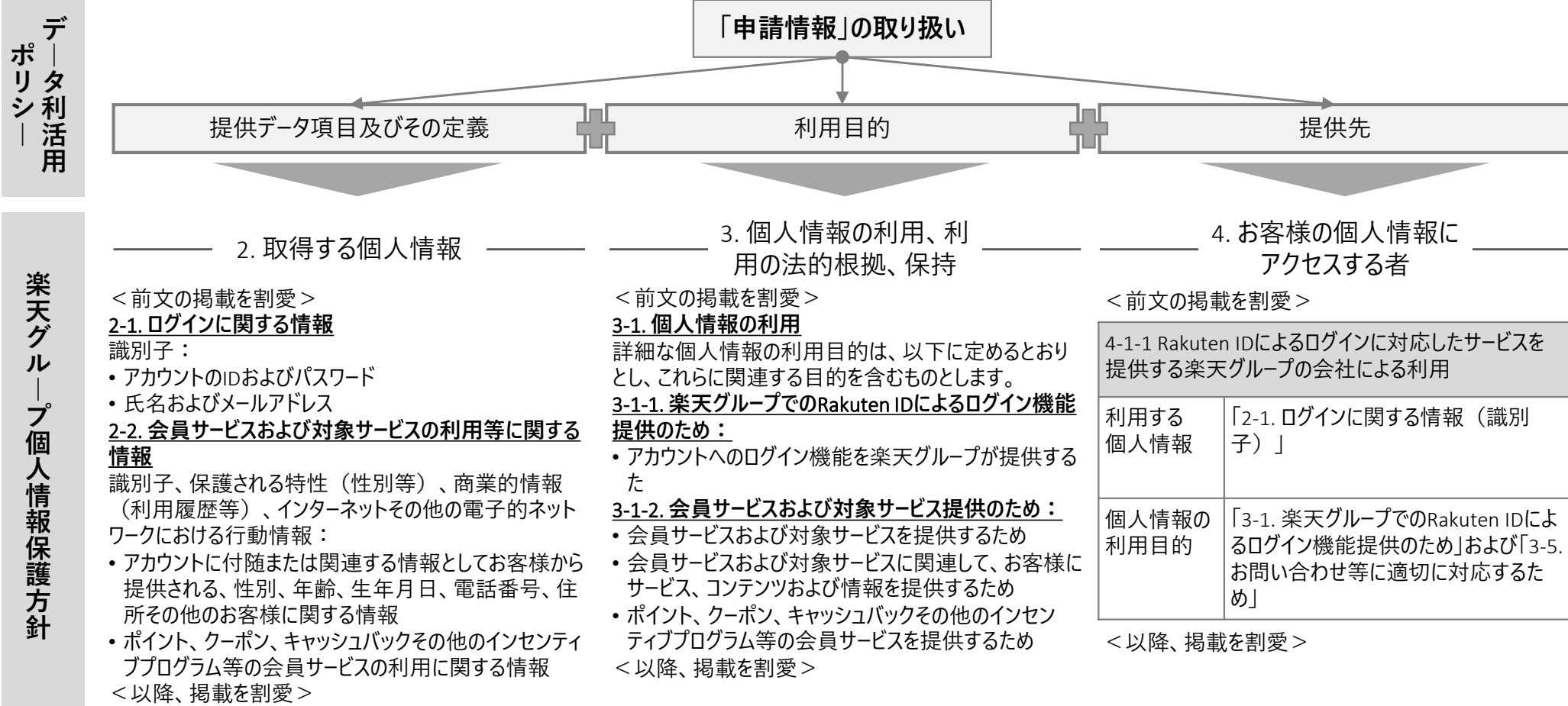
※中小企業庁関連事業データ利活用ポリシーの公開は割愛

# プラットフォームを有する企業の規定において、データ利活用に関しては「データ項目及びその定義」「利用目的」「提供先」を整理して記載している例があります。

## 【ご参考】利用規約におけるデータ活用に関する記載例（楽天グループの場合）

概要

- 楽天グループの場合、取り扱い情報が個人情報であることもあり、データ項目、利用目的、提供先を明確に示し、理解醸成を図っている。
- 本事業で取り扱う法人情報は、個人情報のような明確な決まりはないが、国が情報を取り扱う点でより厳格に取り扱う必要がある点を考慮し、個人情報保護法の考えに則りデータ利活用ポリシーにおいてもデータ項目、利用目的、提供先を提示する。

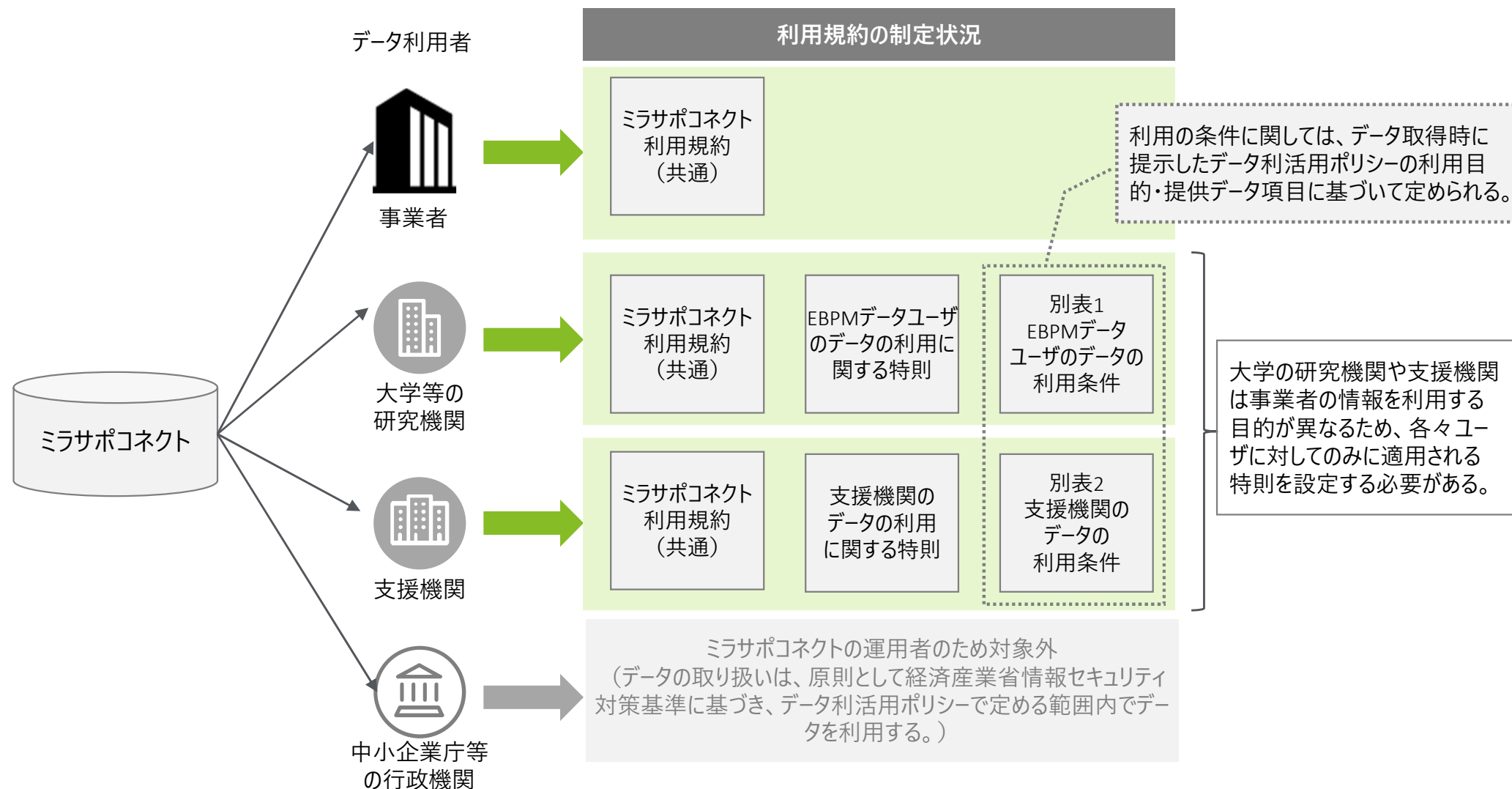


楽天グループ個人情報保護方針

## 5 データ提供時における対応

# 行政機関を除くデータ利用者に対して利用規約を定め、自身以外の事業者に関する情報を取り扱うユーザに対して個別に適用すべき事項に関しては特則を作成します。

## ミラサポコネクト利用規約の全体像



# ミラサポコネクト利用規約に関しては、利用方法だけではなく、トラブルや不正利用が発生した場合の対応を定め、適切なデータ利用を促すことが重要となります。

## ミラサポコネクト利用規約の構成

|                                  |               | 規定内容                                                                                                                                                                                                                                       | 該当条項        |
|----------------------------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| ミラサポコネクト利用規約<br>(共通)             | ミラサポコネクトの利用方法 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 会員登録の方法等、ミラサポコネクトのサービス内容や利用するための条件を定める。</li> <li>■ また、不適切な利用をした利用者が、継続的にミラサポコネクトを利用してしまう状況を避けるために会員登録を退会・停止させる際の条件を定める。</li> </ul> <p>※ただし、ミラサポコネクトの設計に応じて内容を規定する必要があるため、詳細な内容に関しては今後の検討に引き継ぐ</p> | 第1～14条      |
|                                  | 一般条項          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 免責事項や秘密保持義務、反社会的勢力の排除、準拠法等、規約特有の内容以外で、一般的に定められる条項を定める。</li> </ul>                                                                                                                                 | 第16～27条     |
| データの利用に関する特則<br>(別紙のデータの利用条件を含む) | 受領データの取り扱い    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 受領したデータを利用・提供できる範囲を提示し、その範囲を超えて情報を利用・提供できないことを定める。(利用・提供できる範囲はデータ利活用ポリシーに基づく)</li> <li>■ また、ユーザの情報の取り扱いに違反があった、もしくはそのおそれがある場合には、中小企業庁がユーザに対して受領データの削除等の措置が実施できるように条件を定める。</li> </ul>              | 特則<br>第1～7条 |
| EBPMデータユーザ・支援機関向けの2パターン有         | 派生データの取り扱い    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ データ利用者が受領データを加工・分析することにより派生した成果物（個人情報・事業者情報を含まない）に対する知的財産権の帰属を定める。</li> <li>■ また、派生データは受領データと同一性が認められない情報のため、受領データとは別に、情報の提供・利用できる範囲を定める。</li> </ul>                                              | 特則<br>第8～9条 |

※ミラサポコネクト利用規約の公開は割愛

# データの取り扱いに関しては、データユーザの利用用途を鑑みつつ、定められた利用目的以外に使用することを禁止する内容を規定します。

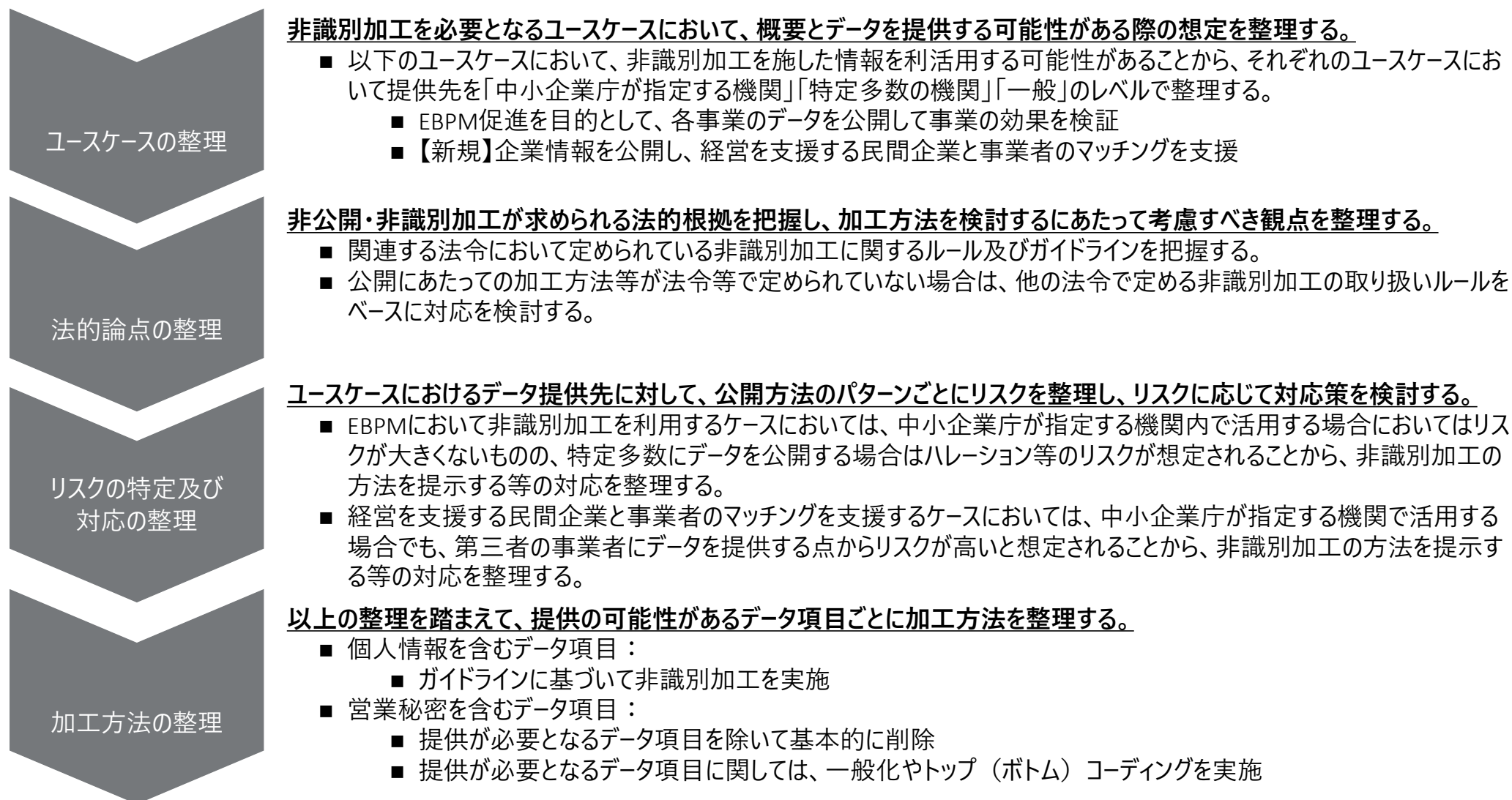
## データユーザによる規約内容と主な相違点

|            |        | 支援機関                                                                                                                                                              | 大学等の研究機関<br>(EBPMデータユーザ)                                                                                                                              |
|------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 利用における前提   |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 支援機関が事業者の経営支援を実施する際には、支援者自身のみがデータを利用する想定</li> <li>■ 支援機関が支援実績の公開等で派生データを利用する可能性があり、個別に判断が必要となる想定</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ EBPMを実施する際には、EBPMデータユーザが指定した分析の実施者もデータを利用する必要がある想定</li> <li>■ 分析結果（派生データ）に関しては、研究を目的として利用・公開される想定</li> </ul> |
| 受領データの取り扱い | 利用条件   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 受領したデータは、データ利活用ポリシーで定める目的のみに利用できるものとして、目的外利用及び第三者提供を禁止する。</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 左記の内容に加え、データの分析においては<b>実施者に情報開示する必要があることから、実施者を中小企業庁へ報告する義務を定める。</b></li> </ul>                              |
|            | 違反時の対応 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ データを不適切な利用した、またはそのおそれがある場合には、中小企業庁はデータの削除や損害の賠償等の対応求めることができる。</li> </ul>                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>実施者が原因の場合も含め</b>、違反時に中小企業庁はデータの削除や損害の賠償等の対応求めることができる。</li> </ul>                                          |
| 派生データの取り扱い | 利用条件   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 適切に創出した派生データに関しては、定められた利用目的に限り、使用若しくは利用できる。なお、<b>商工会議所等の一部の支援機関が情報を第三者に開示する可能性を鑑み、開示においては中小企業庁と協議するものとする。</b></li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 適切に創出された派生データに関しては、<b>学術研究を目的とする場合に限り、自由に開示又は使用若しくは利用できる。</b></li> </ul>                                     |
|            | 違反時の対応 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 不適切にデータを創出された派生データに関しては、中小企業庁はデータユーザーに対してデータの開示や削除、現地調査を求めることができる。</li> </ul>                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 同左</li> </ul>                                                                                                |

## 6 非識別加工に係る整理

# 法的論点を整理しつつ非識別加工情報の活用方法を明確化する一方で、最終的にはユースケースにおけるリスクを特定した上で具体的な対応を検討します。

## 非識別加工に係る整理の流れ



# 非識別加工を施した情報を利活用するユースケースに基づき、データ利活用におけるリスクを整理し、必要となる対応を整理します。

## ユースケースの整理

|           |             | EBPM促進を目的として、各事業のデータを公開して事業の効果を検証                                                                                                                                                                                                                                                | 企業情報を公開し、経営を支援する民間企業と事業者のマッチングを支援                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ユースケースの概要 |             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ EBPMの促進を目的として、各種大学や研究機関等に各種事業の申請・支援状況に関するデータ提供する。</li> <li>■ 当該ユースケースにおいては、データ提供者からEBPMへの活用に関して同意が得られなかった場合や中小企業庁関連事業データ利活用ポリシーにおいて対象に含まれていない特定多数の機関へのデータ提供を想定していることから、特定の個人及び個社や営業秘密が識別できない状態にデータを加工（非識別加工）して提供することを想定している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中小企業に対して投資や各種サービスを提供することにより経営を支援することができる民間企業（VC、PEファンド等）に事業者の情報を提供し、事業者とのマッチングを支援する。</li> <li>■ 当該ユースケースにおいては、公開する情報は特定の個社を特定できない状況で事業内容や経営状況に関する情報を開示することを想定している。（支援を実施する企業は、興味を持った事業者に対して個別に詳細な情報公開を依頼して、事業者に許可された場合にのみ、個社名や詳細な情報を取得できる予定）</li> </ul> |
| 提供先（想定）   | ①中小企業庁の指摘機関 | RIETI・大学・研究機関等、中小企業庁が指定する機関                                                                                                                                                                                                                                                      | DX連携事業者として認定した機関                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|           | ②特定多数の機関    | 民間のリサーチャー等の特定の業種                                                                                                                                                                                                                                                                 | VCやPEファンド等の特定の業種                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|           | ③一般         | 一般の利用者（対象がミラサポコネット会員の場合を含む）                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

非識別加工に関連する法令を整理するとともに、各ユースケースにおいて想定されるリスクを把握し、各提供先への情報公開を実現するための非識別加工方法及び公開方法を検討する。

# 個人情報における非識別加工に関する定めはあるものの、法人情報においては非識別加工に関する定めはなく、他の法令やリスクをベースに対応を検討する必要があります。

## 非識別加工（匿名加工）に関わる法令の整理

| 個人情報に関する法令                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 法人情報に関する法令                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行政個人情報保護法                                                                                                                                                                                                                                                   | 個人情報保護法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 不正競争防止法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>■ 法第44条の2 行政機関非識別加工情報の作成及び提供等<br/>第1項<br/>行政機関の長は、この章の規定に従い、行政機関非識別加工情報（行政機関非識別加工情報ファイルを構成するものに限る。以下この章及び次章において同じ。）を作成し、及び提供することができる。</p> <p>第2項<br/><u>行政機関の長は、法令に基づく場合を除き、利用目的以外の目的のために行政機関非識別加工情報及び削除情報（保有個人情報に該当するものに限る。）を自ら利用し、又は提供してはならない。</u></p> | <p>■ 法第36条 匿名加工情報の作成等<br/>個人情報取扱事業者は、匿名加工情報を作成するときは、<u>特定の個人を識別すること及びその作成に用いる個人情報を復元することができないようにするために必要なものとして個人情報保護委員会規則で定める基準に従い、当該個人情報を加工しなければならない。</u></p> <p>■ 法第37条 匿名加工情報の提供<br/>匿名加工情報取扱事業者は、<u>匿名加工情報（自ら個人情報を加工して作成したものを除く。）を第三者に提供するときは、個人情報保護委員会規則で定めるところにより、あらかじめ、第三者に提供される匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目及びその提供の方法について公表するとともに、当該第三者に対して、当該提供に係る情報が匿名加工情報である旨を明示しなければならない。</u></p> | <p>■ 法第3条 差止請求権<br/><u>不正競争によって営業上の利益を侵害され、又は侵害されるおそれがある者は、その営業上の利益を侵害する者又は侵害するおそれがある者に対し、その侵害の停止又は予防を請求することができる。</u></p> <p>■ 法第4条 損害賠償<br/><u>故意又は過失により不正競争を行って他人の営業上の利益を侵害した者は、これによって生じた損害を賠償する責めに任ずる。</u>ただし、第十五条の規定により同条に規定する権利が消滅した後にその営業秘密又は限定提供データを使用する行為によって生じた損害については、この限りでない。<br/>※「営業秘密」として保護されるためには、<u>秘密管理性、有用性、非公知性が必要</u>である。</p> |
| <p>非識別加工（匿名加工）に関連する項目</p>                                                                                                                                                                                                                                   | <p>行政法人等に関する法令では利用目的の範囲で非識別加工を活用できるとしている一方で、個人情報保護法では提供データ項目及び提供方法を公表することを求めている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <p>不正競争防止法において、営業秘密等の非識別加工に関する定めはない。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>関連ガイドライン</p>                                                                                                                                                                                                                                             | <p>N/A</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>N/A</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

# 匿名加工の考え方はガイドラインで定められており、個人を識別できる情報や個人の特定につながるおそれがある位置情報または特異な数値を加工する必要があります。

## 【ご参考】個人情報保護法における加工基準

出所：「個人情報の保護に関する法律施行規則」及び  
個人情報御委員会「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（匿名加工情報編）」

|                              | 規則第19条                                                                                                                                                                                                             | ガイドラインで定める加工内容                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)特定の個人を識別することができる記述等の削除    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人情報に含まれる特定の個人を識別することができる記述等の全部又は一部を削除すること（当該全部又は一部の記述等を復元することのできる規則性を有しない方法により他の記述等に置き換えることを含む。）。</li> </ul>                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 氏名、住所、生年月日、性別など特定の<u>個人を識別できる記述等から全部又はその一部を削除するあるいは他の記述等に置き換える</u>ことによって、特定の個人を識別することができないよう加工する。</li> </ul>                                                                      |
| (2)個人識別符号の削除                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人情報に含まれる個人識別符号の全部を削除すること（当該個人識別符号を復元することのできる規則性を有しない方法により他の記述等に置き換えることを含む。）。</li> </ul>                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人識別符号単体で特定の個人を識別できることから、<u>個人識別符号※の全部を削除又は他の記述等へ置き換えて</u>、特定の個人を識別できないよう加工する。<br/>※個人識別符号とは、その情報単体から特定の個人を識別することができるものとして個人情報保護法施行令（平成15年政令第507号）で定めるもの</li> </ul>               |
| (3)情報を相互に連結する符号の削除           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人情報と当該個人情報に措置を講じて得られる情報を連結する符号（現に個人情報取扱事業者において取り扱う情報を相互に連結する符号に限る。）を削除すること（当該符号を復元することのできる規則性を有しない方法により当該個人情報と当該個人情報に措置を講じて得られる情報を連結することができない符号に置き換えることを含む。）。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 安全管理の観点から取得した<u>個人情報</u>を分散管理等しようとするために付されるID等は削除又は他の符号への置き換える必要がある。</li> <li>■ 分散管理等のために附番されたIDのほか、電話番号やメールアドレス等をID代わりに利用している場合についても削除等の措置が必要となる。</li> </ul>                     |
| (4)特異な記述等の削除                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特異な記述等を削除すること（当該特異な記述等を復元することのできる規則性を有しない方法により他の記述等に置き換えることを含む。）。</li> </ul>                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>珍しい事実に関する記述等又は他の個人と著しい差異が認められる記述等を削除又は他の記述等への置き換える必要がある。</u></li> <li>■ 「特異な記述等」とは、特異であるがために特定の個人を識別できる記述等に至り得るものを指すものであり、他の個人と異なるものであっても特定の個人の識別にはつながり得ないものは該当しない。</li> </ul> |
| (5)個人情報データベース等の性質を踏まえたその他の措置 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前各号に掲げる措置のほか、個人情報に含まれる記述等と当該個人情報を含む個人情報データベース等を構成する他の個人情報に含まれる記述等との差異その他の当該個人情報データベース等の性質を勘案し、その結果を踏まえて適切な措置を講ずること。</li> </ul>                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 上述の加工を施した情報であっても、個人情報データベース等の性質により、<u>特定の個人を識別することが可能である状態あるいは元の個人情報</u>を復元できる状態のままである場合にはさらに加工が必要となる。</li> </ul>                                                                 |

# 個人情報情報は削除、またはデータの特異性から特定の個人を識別又は復元できないように留意して加工する必要があります。

## 【ご参考】個人情報保護法における加工事例

出所：「個人情報の保護に関する法律施行規則」及び  
個人情報御委員会「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（匿名加工情報編）」

| 加工事例                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)特定の個人を識別することができる記述等の削除    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 氏名、住所、生年月日が含まれる個人情報を加工する場合に次の措置を講ずる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 氏名：削除</li> <li>➢ 住所：削除、または〇〇県△△市に置き換え</li> <li>➢ 生年月日：削除、または生年月に置き換え</li> </ul> </li> <li>■ 会員ID、氏名、住所、電話番号が含まれる個人情報を加工する場合に次の措置を講ずる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 会員ID、氏名、電話番号：削除</li> <li>➢ 住所：削除、または〇〇県△△市に置き換え</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                           |
| (2)個人識別符号の削除                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象者ごとに異なるものとなるように<b>役務の利用、商品の購入又は書類に付される符号</b>（旅券番号、基礎年金番号、免許証番号、住民票コード、マイナンバー、各種保険証の番号等の公的機関が割り振る番号）<b>を削除する。</b></li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| (3)情報を相互に連結する符号の削除           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービス会員の情報について、<b>氏名等の基本的な情報と購買履歴を分散管理し、それらを管理用IDを付すことにより連結している場合、その管理用IDを削除する。</b></li> <li>■ 委託先へ個人情報の一部を提供する際に利用するために、管理用IDを付すことにより元の個人情報と提供用に作成した情報を連結している場合、当該管理用IDを仮IDに置き換える。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| (4)特異な記述等の削除                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 症例数の極めて少ない病歴を削除する。</li> <li>■ <b>年齢が「116歳」という情報を「90歳以上」に置き換える。</b></li> </ul> <div> <p>個人を特定できる情報だけではなく、個人の特定に繋がるおそれがある位置情報や特異な記述・数値に関しても加工する必要有</p> </div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| (5)個人情報データベース等の性質を踏まえたその他の措置 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 移動履歴を含む個人情報データベース等を加工の対象とする場合において、<b>自宅や職場などの所在が推定できる位置情報</b>（経度・緯度情報）<b>が含まれており、特定の個人の識別又は元の個人情報の復元につながるおそれがある場合に、推定につながり得る所定範囲の位置情報を削除する。</b></li> <li>■ ある小売店の購買履歴を含む個人情報データベース等を加工の対象とする場合において、当該小売店での購入者が極めて限定されている商品の購買履歴が含まれており、特定の個人の識別又は元の個人情報の復元につながるおそれがある場合に、具体的な商品情報（品番・色）を一般的な商品カテゴリーに置き換える。</li> <li>■ 小学校の身体検査の情報を含む個人情報データベース等を加工の対象とする場合において、<b>ある児童の身長が170cmという他の児童と比べて差異が大きい情報があり、特定の個人の識別又は元の個人情報の復元につながるおそれがある場合に、身長が150cm以上の情報について「150cm以上」という情報に置き換える。</b></li> </ul> |

各データ項目に対して関連する法令に基づいて非識別加工を施す想定ですが、法人情報に関しては加工を施した場合においてもハレーション等が発生する可能性があります。

データ項目における非識別加工に関する整理

| 該当データ項目       |    |             | 関連する法令                                                                       | 非識別加工における基本方針                                                                                                                   | 非識別加工後に想定される問題点                                                                                                                    |
|---------------|----|-------------|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 個人情報を含むデータ項目  | 1  | 申請者の識別・属性情報 | <ul style="list-style-type: none"> <li>行政個人情報保護法</li> <li>個人情報保護法</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事業者利用目的を提示する。</li> <li>個人情報保護法におけるガイドラインに基づき削除もしくは一般化する。</li> </ul>                      | —                                                                                                                                  |
|               | 2  | 共同申請者情報     |                                                                              |                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |
|               | 5  | 担当者情報       |                                                                              |                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |
| 営業秘密を含むデータ項目  | 3  | 事業・営業情報     | <ul style="list-style-type: none"> <li>不正競争防止法</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>個社が特定できる状態で中小企業庁以外の第三者に情報を提供した場合、事業者からのハレーション等につながることから、個社が特定できないように非識別加工を施す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>採択者一覧が公開されていることから、加工を施した場合でも個社が特定される可能性がある。</li> </ul>                                      |
|               | 4  | 承継情報        |                                                                              |                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |
|               | 6  | 財務情報        |                                                                              |                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |
|               | 7  | 事業計画        |                                                                              |                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |
|               | 8  | 申請事業内容      |                                                                              |                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |
| 上記以外のその他データ項目 | 9  | 審査情報        | <ul style="list-style-type: none"> <li>不正競争防止法</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>営業秘密を含むデータであることから、目的外利用や第三者への開示は差止請求の対象となることから非識別加工を施す。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>営業秘密に関する加工方法は定められておらず、加工を施した場合でも営業秘密に該当する可能性があり、公表した情報を営業秘密の公開として差止請求を受ける可能性が残る。</li> </ul> |
|               | 10 | 制度活用情報      |                                                                              |                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |
|               | 11 | 課題に係る情報     | —                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の組合せや記載の特性で個が特定される可能性があるため、提供する場合は削除もしくは一般化するのが望ましい。</li> </ul>                        | —                                                                                                                                  |
|               | 12 | 支援機関情報      |                                                                              |                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |
|               | 13 | 支援情報        |                                                                              |                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |

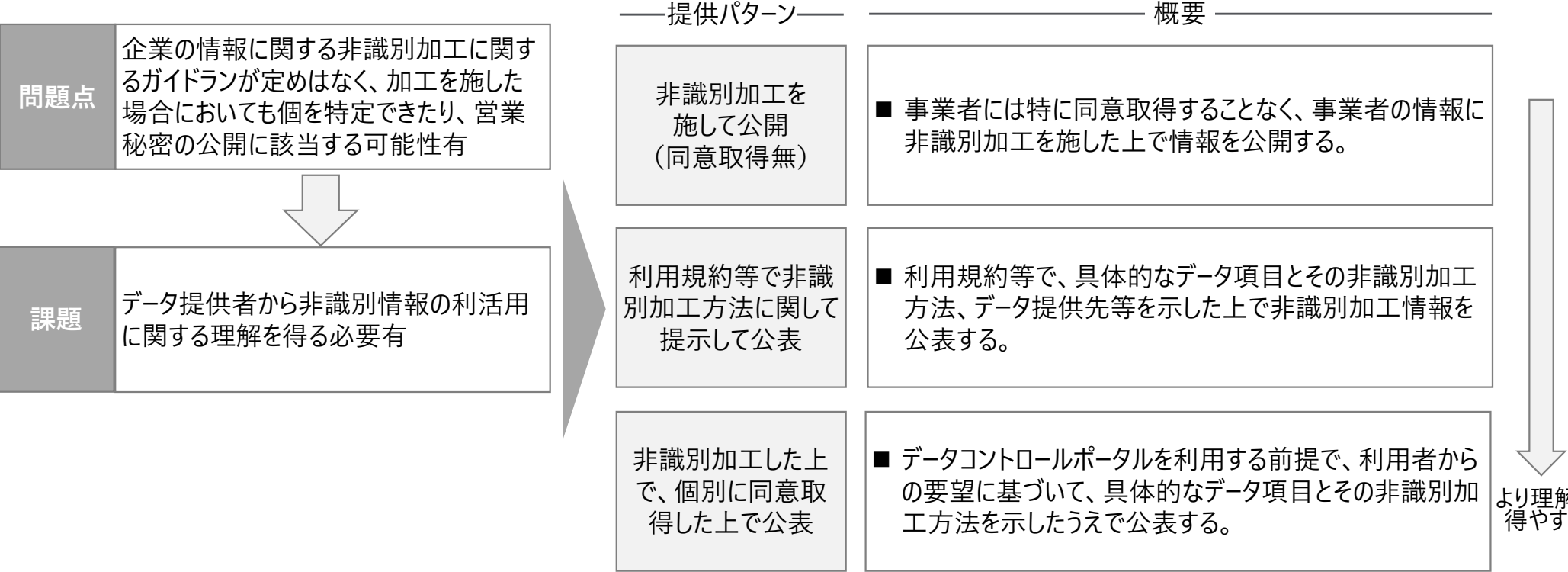
識別加工だけでは発生する問題を解決できないため、公開方法にて対応検討

# 事業者からのハレーションや差止請求等の可能性を踏まえ、事業主からの同意の得やすさを考慮した非識別加工情報におけるデータ公開方法のパターンを整理します。

## データ公開方法のパターン整理

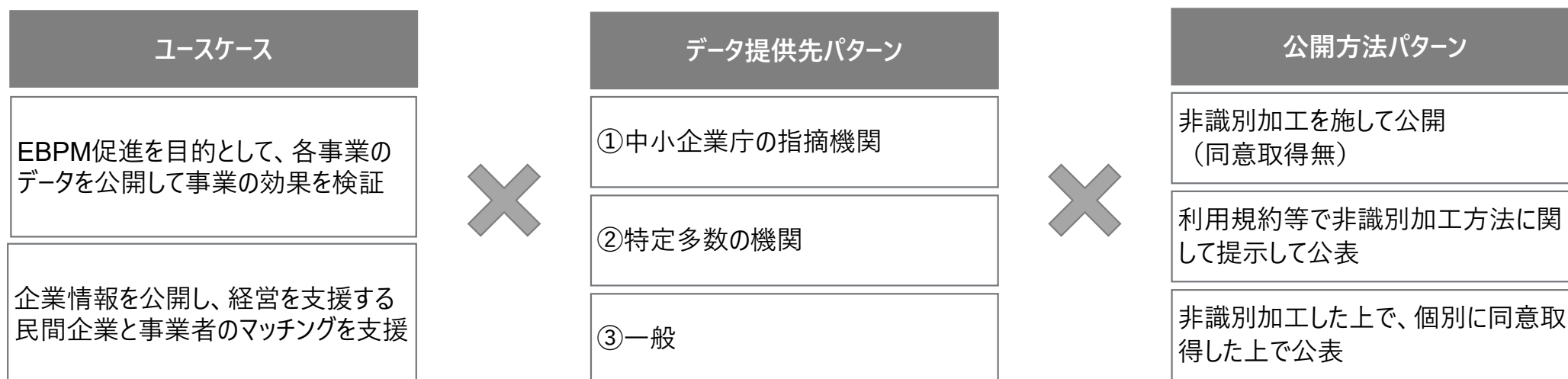
パターン整理の考え方

- 今回取り扱う法人情報に関する非識別情報に関する対応は、不正競争防止法等で明確に定められていないことから、事業者から非識別加工の利活用に関して理解を得る必要がある。
- そのため、非識別加工に関して、事業者からの同意の得やすさを鑑みて、加工方法やデータ提供先等の情報を事業者に開示することも検討する。（営業秘密の開示してしまう、個を特定されてしまうリスクが発生してしまうものの、事業者に非識別加工の方法に関しては認識してもらった上で同意を取得することでハレーション等のリスクを軽減できるものと思料）
- また、データコントロールポータルを利用する場合、利用者に対してデータ利用者が個別にデータ提供を依頼できるため、更にハレーション等のリスクが軽減されると考えられる。



# 非識別情報の利活用におけるリスクを整理し、ユースケースの実施に向けて取りえる対応策を検討します。

## リスク特定及び対応の整理における考え方



ユースケースの提供先に対して、公開方法パターンに応じて非識別加工情報を公開・提供した際に発生し得るリスク（事業者からのハレーションや再度止め請求につながる可能性）を整理し、リスクに応じた対応先を検討する。

特定多数の機関や一般への公開に関しては、ハレーション等につながる可能性があることから、非識別加工方法の提示や提供データ項目の限定等の対策が必要となると考えます。

## リスクの特定・評価1/2

EBPM促進を目的として、  
各事業のデータを公開して  
事業の効果を検証

企業情報を公開し、経営  
を支援する民間企業と  
事業者のマッチングを支援

| データ提供先                                          | 公開方法パターン                                                                                                       |                                                                                                                                                                |                                                          |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
|                                                 | 非識別加工を施して公開<br>(同意取得無)                                                                                         | 利用規約等で非識別加工方法に関して<br>提示して公表                                                                                                                                    | 非識別加工した上で、個別に同意取得<br>した上で公表                              |
| ①中小企業庁の指定機関：<br>RIETI・大学・研究機関等、中小<br>企業庁が指定する機関 | ■ EBPMを目的としていることに加え、提供先が特定の機関に絞られていることから、データ公表の差止等に関連するおそれは②、③に比べて低い。                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 利用規約等で具体的な公表先が明示されるため同意を得やすくハレーションも小さい。</li> <li>■ 営業秘密に該当するおそれのある情報は利用規約の内容等に基づいて加工する必要がある。</li> </ul>               | <div>事業効果の検証という点を鑑み、個別に同意取得することは現実的ではないと判断して検討の対象外</div> |
| ②特定多数の機関：<br>民間のリサーチャー等の<br>特定の業種               | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 提供先等を明確に示さないため、データ提供者が不安に感じる可能性があり、データ公表の差し止め等に関連するおそれがある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 利用規約等で公表先を示すものの特定多数であるため、①と比較すると同意を得にくく、ハレーションも大きい。</li> <li>■ データ提供者のハレーションを考慮すると、項目を限定した公表等が適切であると考えられる。</li> </ul> |                                                          |
| ③一般：<br>一般利用者                                   |                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 不特定多数への公表となるため、②と比較すると同意を得にくく、ハレーションも大きい。</li> <li>■ データ提供者のハレーションを考慮すると、項目を限定した公表等が適切であると考えられる。</li> </ul>           |                                                          |

- ①について、EBPMという目的と提供先を鑑みて、非識別加工を施して公開することも検討し得る。
  - ②・③については特定多数にデータが提供されることからデータ提供者からのハレーションが発生する可能性があることから、非識別加工方法を提示した上で、特定の項目のみの公表が適切であると考え。
- ※具体的な加工方法は、後述の非識別加工方法を参照

# 第三者の事業者にデータ提供することを鑑み、少なくとも非識別加工方法や提供先をの提示が必要となり、公開先を広げる際にはデータ項目の制限も必要になると考えます。

## リスクの特定・評価2/2

EBPM促進を目的として、  
各事業のデータを公開して  
事業の効果を検証

企業情報を公開し、経営  
を支援する民間企業と  
事業者のマッチングを支援

ケース  
の整理  
法的論  
の整理  
リスク  
対応整  
理  
加工方  
法の整  
理

| データ提供先                                       | 公開方法パターン                                                                                                     |                                                                                                                                                            |                                                                                                                              |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                              | 非識別加工を施して公開<br>(同意取得無)                                                                                       | 利用規約等で非識別加工方法に関して<br>提示して公表                                                                                                                                | 非識別加工した上で、個別に同意取得<br>した上で公表                                                                                                  |
| ①中小企業庁の指摘機関：<br>DX連携事業者として<br>認定した機関         | <ul style="list-style-type: none"> <li>提供先等を明確に示さないため、データ提供者が不安に感じる可能性があり、データ公表の差し止め等に発展するおそれがある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>利用規約等で具体的な公表先が明示されるため同意を得やすくハレーションも小さい。</li> <li>営業秘密に該当するおそれのある情報は利用規約の内容等に基づいて加工する必要がある。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>個社と個社のやりとりとなるため、同意を得やすく、ハレーションも小さい。</li> <li>個別に同意することになるため、データ利用者の手間がかかる。</li> </ul> |
| ②特定多数の機関：<br>認定等を行うことなく、VCやPE<br>ファンド等の特定の業種 |                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>利用規約等で公表先を示すものの特定多数であるため、①と比較すると同意を得にくく、ハレーションも大きい。</li> <li>データ提供者のハレーションを考慮すると、項目を限定した公表等が適切であると考えられる。</li> </ul> |                                                                                                                              |
| ③一般：<br>一般利用者<br>(ミラサポコネット会員)                |                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>特定多数への公表となるため、②と比較すると同意を得にくく、ハレーションも大きい。</li> <li>項目を限定した公表等が適切であると考えられる。</li> </ul>                                |                                                                                                                              |



- ①については、利用規約等で非識別加工に係る内容を明記した上で、公表することも検討し得る。
  - ②・③については特定多数にデータが提供されることからデータ提供者からのハレーションが発生する可能性があることから、非識別加工方法を提示した上で、特定の項目のみの公表が適切であると考ええる。
- ※具体的な加工方法は、後述の非識別加工方法を参照

# 非識別加工の方法を検討するにあたり、各ユースケース達成に向けて必要となるデータに基づき、提供・加工が必要となるデータ項目を整理しています。

## 各ユースケースにおいて必要となる情報の整理

| 目的達成に向けて必要となるデータ |                     | データ項目 |             | EBPM促進を目的として、各事業のデータを公開して事業の効果を検証 | 企業情報を公開し、経営を支援する民間企業と事業者のマッチングを支援 |
|------------------|---------------------|-------|-------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| I                | 申請者を特定する情報          | 1     | 申請者の識別・属性情報 | △<br>(属性情報のみ)                     | △<br>(属性情報のみ)                     |
|                  |                     | 2     | 共同申請者情報     |                                   |                                   |
| II               | 申請者の事業内容を把握するための情報  | 3     | 事業・営業情報     | ○                                 | ○                                 |
|                  |                     | 4     | 承継情報        | ○                                 | ○                                 |
| III              | 申請の担当者にコンタクトするための情報 | 5     | 担当者情報       |                                   |                                   |
| IV               | 経営・財務状況に係る情報        | 6     | 財務情報        | ○                                 | ○                                 |
| V                | 申請に係る情報             | 7     | 事業計画        | ○                                 |                                   |
|                  |                     | 8     | 申請事業内容      | ○                                 |                                   |
|                  |                     | 9     | 審査情報        | ○                                 |                                   |
|                  |                     | 10    | 制度活用情報      | ○                                 |                                   |
| VI               | 申請者が抱える課題に関する情報     | 11    | 課題に係る情報     |                                   |                                   |
| VII              | 支援機関に係る情報           | 12    | 支援機関情報      |                                   |                                   |
|                  |                     | 13    | 支援情報        |                                   |                                   |

EBPM促進を目的として、各事業のデータを公開して事業の効果を検証

- 申請者を特定する情報（属性情報のみ）
- 申請者の事業内容を把握するための情報
- 経営・財務状況に係る情報
- 申請に係る情報

企業情報を公開し、経営を支援する民間企業と事業者のマッチングを支援

- 申請者を特定する情報（属性情報のみ）
- 申請者の事業内容を把握するための情報
- 経営・財務状況に係る情報

非識別加工は、原則として、個を特定できる情報やユースケースの実行において不要となる項目は削除し、提供が必要となるデータ項目に関しては一般化する想定です。

## 非識別加工方法1/2

| データ項目                | 含有データ    |      | 非識別加工の方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 具体例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------|----------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      | 個を特定する情報 | 営業秘密 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 1<br>申請者の<br>識別・属性情報 | ○        |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 以下の情報を含むデータ項目は削除 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 特定の個社・個人を識別できる記述</li> <li>➢ 個社・個人の特定につながりかねない特異な記述</li> <li>➢ 他の情報と照合される可能性があるID等</li> </ul> </li> <li>■ 属性情報に関しては、原則、該当データを一般化。<br/>ただし、数値データにおいて他の著しい差異が発生する場合は、トップ（ボトム）コーディングによる加工を実施<br/>※その他条件と掛け合わせることで個社・個人を特定される可能性がないかは加工工時に要検証</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 削除項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 法人名称</li> <li>➢ 法人代表者氏名</li> <li>➢ 法人代表者生年月日</li> <li>➢ 個人事業主名</li> <li>➢ 電話番号</li> </ul> </li> <li>■ 一般化項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 住所⇒都道府県のみ表記</li> <li>➢ 法人設立年月日⇒年月で表記</li> <li>➢ 資本金額⇒〇〇～△△百万円で表記</li> <li>➢ 従業員数⇒〇〇～△△人で表記</li> </ul> </li> </ul> |
| 割愛                   |          |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 3<br>事業・営業情報         |          | ○    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業者の事業内容に関しては一般化</li> <li>■ 技術・営業ノウハウに関する情報は削除</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般化項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 〇〇通信に関わるサービス⇒情報通信業</li> </ul> </li> <li>■ 削除項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 取引先名称</li> <li>➢ 差別化ポイント</li> <li>➢ 提供価値</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                               |
| 4<br>承継情報            | ○        | ○    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユースケースにおいて不要な項目は削除の上、必要なデータ項目に関しては一般化</li> <li>■ 承継先の企業名等、個社・個人を識別できる情報が含まれる場合は削除</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般化項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事業承継の計画⇒事業承継計画の有無</li> </ul> </li> <li>■ 削除項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 承継者氏名</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                   |
| 割愛                   |          |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

非識別加工は、原則として、個を特定できる情報やユースケースの実行において不要となる項目は削除し、提供が必要となるデータ項目に関しては一般化する想定です。

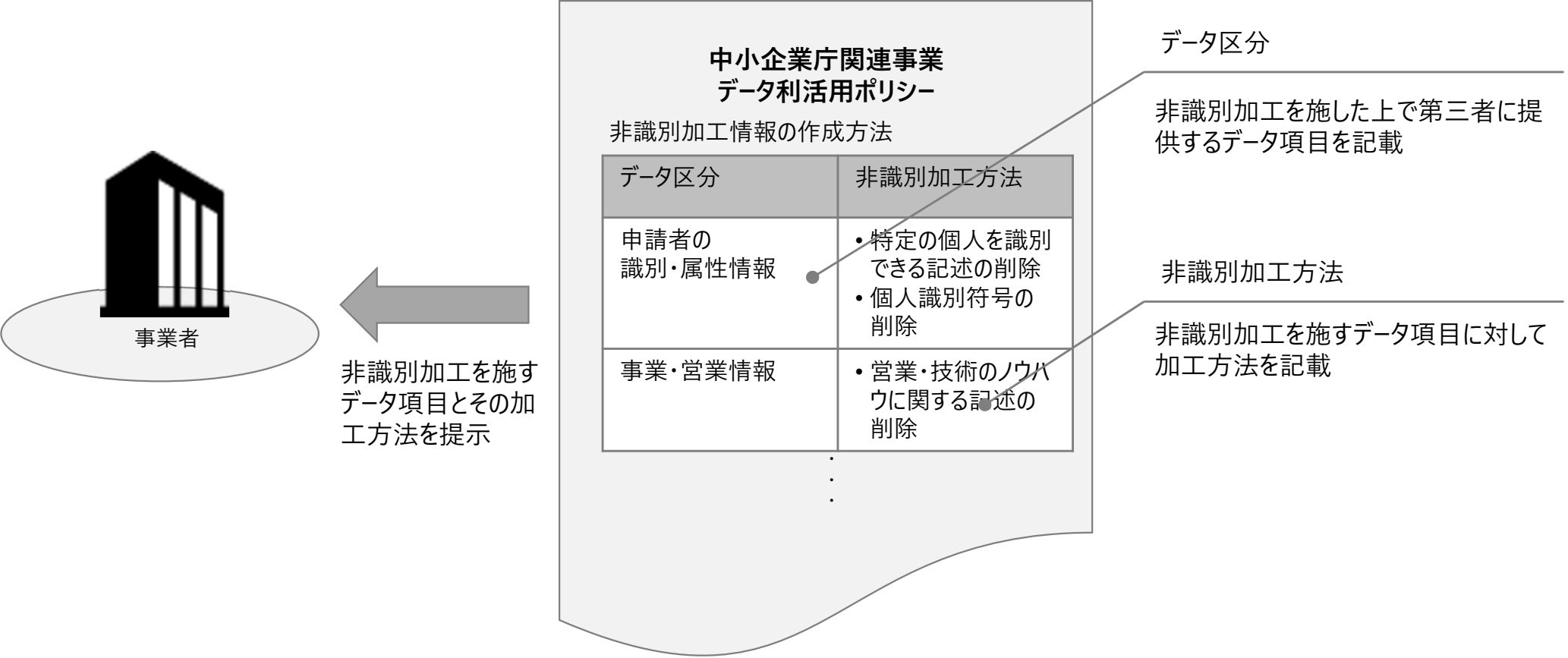
非識別加工方法2/2

| データ項目 |        | 含有データ        |      | 非識別加工の方法                                                                                                                                                                                                     | 具体例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|--------|--------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |        | 個を特定<br>する情報 | 営業秘密 |                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 6     | 財務情報   |              | ○    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユースケースにおいて不要な項目は削除の上、必要なデータ項目に関しては一般化。また、削除しなかった数値に関しても一般化及びトップ（ボトム）コーディングを施す必要有</li> </ul>                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 数値の加工例（例：売上高） <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「〇〇万円～△△万円」と範囲の表記に置き換え</li> <li>➢ また、他の事業者と比較し、特に大きい数値が存在する場合は、「〇〇万円以上」に表記を置き換え</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                  |
| 7     | 事業計画   |              | ○    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業計画の内容に関する記述は原則削除</li> <li>■ ただし、目標の数値等を活用する場合には、数値を一般化。ただし、数値データにおいて他の著しい差異が発生する場合は、トップ（ボトム）コーディングによる加工を実施</li> </ul>                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 8     | 申請事業内容 |              | ○    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 受付番号等、他の情報と照合可能な情報は削除</li> <li>■ 原則、支援の具体的な内容を削除。ユースケースにおいて活用が必要な場合は情報を一般化</li> <li>■ 補助金の金額に関しては一般化。ただし、数値データにおいて他の著しい差異が発生する場合は、トップ（ボトム）コーディングによる加工を実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 削除項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 受付番号</li> <li>➢ 交付決定番号</li> <li>➢ 申請事業内容</li> </ul> </li> <li>■ 数値の加工例（例：補助金交付高） <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「〇〇万円～△△万円」と範囲の表記に置き換え</li> <li>➢ また、他の事業者と比較し、特に大きい数値が存在する場合は、「〇〇万円以上」に表記を置き換え</li> </ul> </li> </ul> |
| 9     | 審査情報   |              | ○    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個社を特定する情報ではない為一般化は原則として不要（ただし、極端な数値により個社を特定できる可能性がある場合は、数値を一般化）</li> </ul>                                                                                          | —                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 10    | 制度活用情報 |              | ○    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 過去に活用した制度の情報に関しては、データにおいてすでに制度の活用有無として情報が一般化されているため加工は不要</li> </ul>                                                                                                 | —                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

割愛

# 非識別加工における活用データ項目と加工方法に関しては、中小企業庁関連事業データ利活用ポリシーに掲載することを検討しています。

## 中小企業庁関連事業データ利活用ポリシーにおける非識別加工に関する記載の追加について



## 二次利用未承諾リスト

### **【報告書の題名】**

令和３年度経済産業省デジタルプラットフォーム構築事業（中小企業・小規模事業者支援サイトのＡＩ活用による経営課題解決促進の実証研究に係わるデータ利活用ルール検討調査）最終報告資料

### **【委託事業名】**

令和３年度経済産業省デジタルプラットフォーム構築事業（中小企業・小規模事業者支援サイトのＡＩ活用による経営課題解決促進の実証研究に係わるデータ利活用ルール検討調査）

### **【受注事業者名】**

デロイト・トーマツコンサルティング合同会社

| 頁  | 図表番号 | タイトル                            |
|----|------|---------------------------------|
| 42 | -    | プラットフォーム上でサービスを提供する民間事業の例       |
| 53 | -    | 利用規約におけるデータ活用に関する記載例（楽天グループの場合） |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |